

# WOODBURNING STOVE 取扱説明書

MODEL#2040  
**ENCORE**

[アンコール]

MODEL#1975  
**DEFIANT**

[デファイアント]

このたびは、バーモント キャスティングス VERMONT CASTINGSのアンコール ENCORE/デファイアント DEFIANTをお買い上げいただき、  
まことにありがとうございます。

正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。

この「取扱説明書」はお読みになった後も「工事説明書」、「保証書」とともに  
お使いになる方がいつでも見られるところに、大切に保管してください。

(最新の取扱説明書は弊社ホームページよりダウンロードできます  54ページ)



VERMONT  
CASTINGS

VERMONT  
CASTINGS

# ようこそ薪ストーブの国へ

Welcome to Wood Stove-Country.

薪ストーブの国へ、ようこそいらっしゃいました。  
今日から、あなたも薪ストーブの国の住人です。

さて、これから薪ストーブの炎がゆらめく素晴らしい日々が始まりますが、  
その前にお願いしたいことがあります。  
それは、ご使用前にこの「取扱説明書」を必ずていねいにお読みいただくことです。  
そして、この薪ストーブをより正しくご使用いただき、  
末永くこの薪ストーブとともに暖かい人生を分かちあっていただきたいということです。



# 目次

1. 特に注意していただきたいこと	4	壁の保護と離隔距離	16
安全のために必ずお守りください	4	煙突の据え付け	18
2. 付属品一覧	9	部屋の気密と燃焼用空気について	18
3. 薪ストーブの基礎知識	10	ハンドルの取り付け	19
アンコール／デファイアントの歴史	10	オプション／アクセサリ	19
各部名称	10	5. 薪について	20
機能と特長	12	使用する薪の条件	20
4. 設置	14	薪作りのための斧と薪割り	21
据え付け場所の選定	14	6. 焚き方と燃焼維持	22
床の保護（炉台の寸法）	14	着火の前に用意するもの	22
前方、および天井の離隔距離	15	慣らし焚きについて	23
		着火	23
		薪の追加	27
		消火	28
		触媒（キャタリティックコンバスター）について	28
		7. ドラフト管理	30
		8. 点検スケジュール	34
		点検・お手入れの区分	34
		定期点検	35
		9. メンテナンス	36
		灰の掃除	36
		薪ストーブ本体のお手入れ	36
		ドアガラスのお手入れ	37
		ドアガラスの交換	38
		ファイバーロープの交換	39
		フロントドアの調整	42
		灰受けドアの調整	43
		バイパスダンパーの調整	44
		アンダイアの点検	44
		ガス燃焼室の点検掃除	45
		給気アダプターの掃除	46
		給気フィルター（オプション）の掃除	46
		煙突の点検と掃除	47
		10. トラブルシュート（問題解決のヒント）	48
		11. 仕様	52
		仕様一覧	52
		ストーブ寸法図	53
		12. 保証とアフターサービス	54



※本書内の説明に使用しているイラストは、アンコール（6インチ、または8インチ楕円）で表示しています。

# 特に注意していただきたいこと

1

安全のために必ずお守りください

特に注意していただきたいこと

## 警告表示について

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな警告表示をしています。誤った取り扱いをすることによって生じるリスクの内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

### 危険

この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

### 警告

この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

### 注意

この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します



この表示は、「禁止」されている内容です。



この表示は、「注意」していただく内容です。



この表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

## 危険

### お客様による据え付け 移設工事の厳禁

据え付けや移設工事は販売店、または専門業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。設置については別紙の「工事説明書」の他、火災予防条例、建築基準法などの法令の基準があります。これらに従わない場合、火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。

### 据え付ける床を必ず保護する

ストーブを据え付ける床を不燃材料で防火上有効に保護してください。また、ストーブの底部に付属品のボトムヒートシールド（遮熱板）を必ず取り付けてください。床の保護を怠ると燃えた炭の落下や輻射熱で、火災の原因になります。

 14 ページ／別紙「工事説明書」

### ガソリン厳禁

ガソリン、軽油、灯油、またはオイルなど引火しやすい油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

### スプレー缶厳禁

スプレー缶、カセットボンベなどの高圧容器等をストーブの上や周囲に置かないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

### 衣類の乾燥禁止

ストーブの上に物が落下する場所では使用しないでください。また、ストーブの上部で衣類などの乾燥はしないでください。落下物に着火して、火災の原因になります。

### 灰を可燃性の容器に入れない

ストーブから取り出した灰を紙袋やビニール袋など可燃性のものに入れないでください。火災の原因になります。

 36 ページ

## ⚠ 警告

- ❗ 可燃物との距離を離す**  
 ストープ、および煙突から、周囲の壁・天井・柱などの建築物までの間は、火災予防上の安全な離隔距離を設けてください。火災の原因になります。  
 📖 15～18ページ／別紙「工事説明書」
- 🚫 家具、カーテン、寝具、薪など、可燃物近接禁止**  
 家具、カーテン、寝具、薪など燃えやすいものをストープや煙突に近づけないでください。発火して火災の原因になります。  
 📖 15～17ページ／別紙「工事説明書」
- 🚫 煙突・給気筒外れの危険**  
 煙突や給気筒が外れたまま使用しないでください。煙が室内に漏れて健康に害をおよぼすほか、火災の原因になります。
- 🚫 給気・排気経路閉そくの危険**  
 煙突や給気用のダクトがつまったり、ふさがれたまま使用しないでください。煙突内部は定期的（少なくとも1年に1回）、または煙突内部に3mm以上のススやタール等が付着した場合は必ず掃除を行い、屋外給気口の周囲は常に整理整頓してください。煙突火災の発生や煙が室内に漏れて危険です。  
 📖 46、47ページ
- 🚫 分解・改造使用の禁止**  
 本書に記載されているメンテナンス以外の分解、および改造はしないでください。火災や破損の原因になります。

## ❗ 定期点検の実施

お客様ご自身で行われる日々のメンテナンスのほか、定期的（5年に1回程度）に専門業者の点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、経年劣化等により、故障や事故の原因になります。

📖 35ページ／別紙「あんしん点検のご案内」

## ⚠ お子様やお年寄りのご使用注意

お子様やお年寄り、お身体の不自由な方がお使いになる場合は、周囲の方々がやけど等に十分注意してください。

## ❗ 移動防止柵（フェンス）の設置

特に小さなお子様やペットがいるご家庭では、移動防止柵（フェンス）を設置して、ストープに近づかせないでください。やけどの原因になります。

## 🚫 ストープのドアを開けたままの使用禁止

ストープの各ドアを開けたまま使用しないでください。また、ドアが閉まらないような長い（太い）薪は燃やさないでください。煙や火の粉が室内に漏れたり、火がついた薪が室内に転がり落ちるなどして、火災の原因になります。

## 🚫 天災地変の後はそのまま使用しない

地震、水害、落雷などの天災地変にあった場合はそのまま使用せず、必ずお買い求めになった販売店、または専門業者に点検をご依頼ください。隠れた不具合に気づかず使用し続けると、火災の原因になります。

# 特に注意していただきたいこと

1

安全のために必ずお守りください

特に注意していただきたいこと

## ❗ 換気の必要性

ストーブをご使用になる前に、必ず部屋の給気口（レジスター等）を開き、外気が入る状態にしてください。

使用中に煙の強い臭いや異臭を確認したら、ただちに使用をおやめになり、窓や戸を開けて室内の換気を行い、お買い求めの販売店にご相談ください。

👉 18 ページ「部屋の気密と燃焼用空気について」

## ⚠️ 警告

ストーブを据え付ける部屋の気密が高い場合で、部屋の換気設備やストーブの他に空気を必要とする機器の影響により、ストーブが燃焼に必要な空気量を十分に取り込めないと、不完全燃焼が起こる他、一酸化炭素等を含んだ煙が部屋に漏れて、健康に害をおよぼすおそれがあります。  
一酸化炭素検知機能の付いた火災警報器の取り付けをおすすめします。

## ⚠️ 注意

### ⚠️ 高温やけどに注意

燃焼中や消火直後はストーブ、および煙突が高温になりますので、手などで触れないでください。やけどの原因になります。ストーブを操作する際は、燃えにくく断熱効果のあるグローブを必ず着用してください。

### 🚫 自然薪以外の燃料使用禁止

乾燥した自然の薪以外は燃やさないでください。化学物質や塩分等が含まれている薪は、有害物質が発生し健康に害をおよぼすほか、破損の原因になります。

👉 20 ページ

### ⚠️ 焚きすぎ注意

燃焼炉内に薪を入れすぎないでください。また、ストーブ天板の温度は連続して350℃以上で使用しないでください。火力が大きすぎるとドアを開けたときに炎が漏れる、またはストーブや煙突が過熱され、破損の原因になります。

👉 26 ページ

### ❗ 換気扇使用時のご注意

ストーブの燃焼中に換気扇を使用すると、ストーブや煙突接続部から室内に煙が漏れることがあります。異常に気付かれた場合には換気扇を止め、販売店にご相談ください。

### 🚫 異常・異臭・故障時の使用禁止

制御できない燃焼、強い臭い、部品の変形、または破損など、異常や故障に気づいたら使用を中止し、販売店へご相談ください。事故の原因になります。

## ❗ ドアを開ける前に必ず バイパスダンパーを確認

ご使用中にトップ、およびフロントのドアを開ける前に、必ずストーブのバイパスダンパーを開けてください。炎や火の粉が室内に漏れて、やけどのおそれがあります。

## ⊘ ドアを同時に開けない

トップ、およびフロントのドアを同時に開けないでください。炎や火の粉が室内に漏れて、やけどのおそれがあります。

## ❗ トップドアで手を挟まない

トップドアから薪を投入する際は、ハンドルから手を離さないようにしてください。手を離すとトップドアが倒れ、やけどやケガのおそれがあります。

## ❗ 慣らし焚きの必要性

ストーブを焚き始める前に、必ず「慣らし焚き」を行ってください。いきなり高温で使用すると、破損のおそれがあります。焚きははじめの数回は、ストーブと煙突に塗られている錆び止め油や塗料が熱せられ、臭いと煙が発生しますので、窓や戸を開けて室内の換気を行ってください。

 22 ~ 23 ページ

## ❗ 消火器の設置

万が一のために、消火器を常に決まった場所に置いてください。

## ❗ 火災警報器の設置

万が一の時でも、火災警報器があればいち早く火災を知らせてくれます。お住まいの地域の火災予防条例に従い、火災警報器を設置してください。一酸化炭素の検知機能の付いた警報器ですと、なお安心です。

## ❗ 外出前の消火

事故防止のために、お出かけの際はストーブの火が消えていることをご確認ください。予想しない事故が発生するおそれがあります。

## ⚠ ガラスの破損注意

ドアを激しく閉めないでください。また、薪を激しく投入しないでください。ドアガラスが衝撃により破損すると、ケガをするほか、室内に火の粉や煙が漏れるおそれがあります。

## ⊘ 急激な温度上昇の禁止

ストーブに急激な温度上昇をさせないでください。変形、破損のおそれがあります。

## ⊘ ストーブの上へのらない

ストーブの上ののったり、腰かけたりしないでください。ケガや破損の原因になります。

## ⚠ ホウロウの破損に注意

ホウロウ仕上げのストーブは、性質上、仕上げ面が衝撃に弱いため、お取扱いに十分ご注意ください。また、水をかける等ホウロウに急激な温度変化を加えないでください。破損の原因になります。

## ⚠ 水ぬれ注意

ストーブに水分や塩分を付着させたままにしないでください。錆の原因になります。

## ⚠ 子供の火遊び注意

お子様だけで使用させるのはおやめください。また、ライター、マッチ、着火剤などはお子様の手の届かないところで保管してください。予想しない事故のおそれがあります。

# 特に注意していただきたいこと

1

安全のために必ずお守りください

特に注意していただきたいこと

## ⊘ ストープの近くで 輻射熱に長時間当たらない

燃焼中は、ストーブの輻射熱に長時間当たらないでください。低温やけどや脱水症状のおそれがあります。特に小さなお子様がいる家庭では十分ご注意ください。

## ⊘ 料理中は本体のそばから 絶対に離れない

料理中のものが焦げたり燃えたりして火災のおそれがあります。また、天ぷらや揚げものの料理は火がつく原因になりますので、絶対に行わないでください。

## ⚠ 灰をためすぎない

燃焼室や灰受け皿を灰でいっぱいにしないでください。空気吹き出し口がふさがれて燃焼が不完全になる他、薪や熾きが外にこぼれたり、フロントドアが閉まらなくなり、焚きすぎによる破損の原因になります。

## 異常時の処置

■「燃焼が制御できない」「煙が室内にもれる」など、異常が生じたら一時ご使用をお止めになりトラブルシューティングをご確認ください。

👉 48～51 ページ

■トラブルシューティングにない場合、あるいは、ご自身で問題が解決されない場合や故障と思われる時は、お買い求めの販売店へご連絡ください。

## 緊急時の処置

### ● 煙突火災が発生したら……

#### 煙突火災の症状

- ・煙突が赤熱する
- ・煙突から「ゴーッ」「パリパリ」といった異音が聞こえる
- ・屋外の煙突トップから炎が立ち上がる

このような場合、煙突火災が発生している可能性があります。

バイパスダンパーを閉め、火力を弱めるため火力調整レバーを閉じ、フロントドアを確実に閉めて屋外へ避難し、消防署に連絡してください。後に必ず専門業者に点検を依頼してください。

👉 32 ページ「クレオソート」

### ● 地震が起こったら……

- 1) まず身の安全を確保してください。
- 2) 揺れがおさまったら、あわてず落ち着いてバイパスダンパーを閉め、火力を弱めるため火力調整レバーを閉じ、各ドアを確実に閉めてください。
- 3) 地震のあとはそのままご使用にならず、お買い求めの販売店へご相談ください。

#### 【注意】

万が一火災や地震が発生した際は人命を優先し、初期消火が行える場合は消火器で行ってください。やむを得ず水を使う場合は、高温の蒸気が噴出し、二次的な被害が発生するおそれがありますので、安全な距離から初期消火を試みてください。



# 薪ストーブの基礎知識

## 3

### アンコール/デファイアントの歴史

薪ストーブの基礎知識

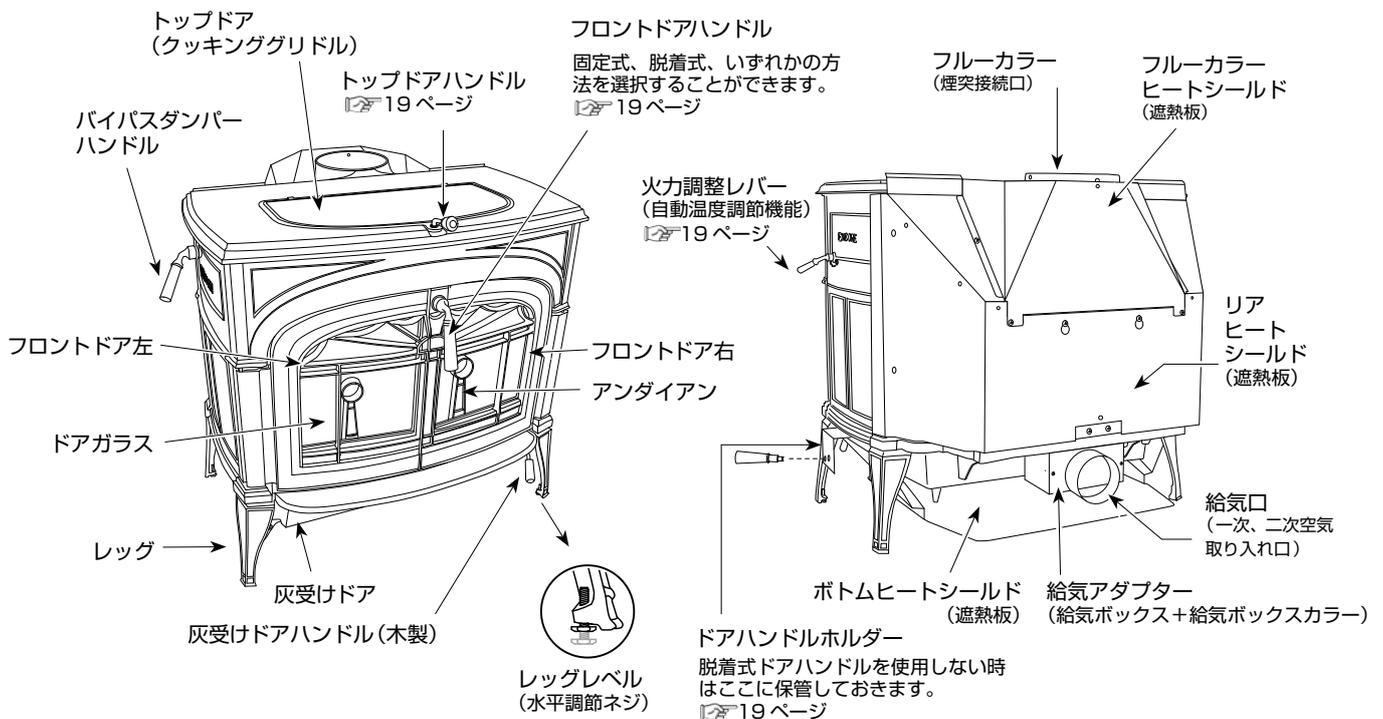
## VERMONT CASTINGS

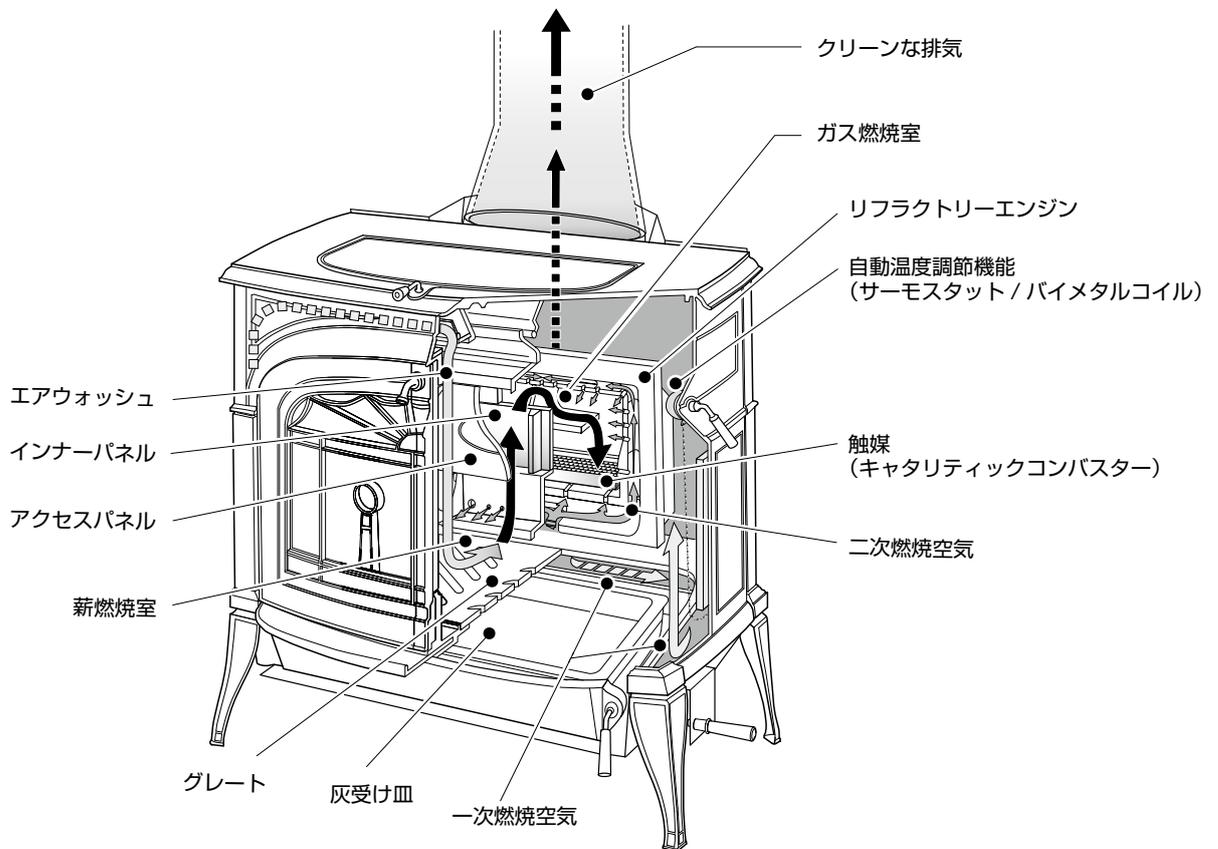
1975年、2人の起業家によって開発されたバーモントキャストिंगスの初代「デファイアント」は、それまでとはまるで違った高いデザイン性と効率のよい燃焼を可能にする新技術を兼ね備えた画期的な薪ストーブでした。オイルショックにより、薪を燃料とした暖房が再評価されるにつれ、「デファイアント」はバーモントキャストिंगスの名を一躍世界に広め、その地位を不動のものとなりました。改良のため、惜しまれながら一度は姿を消した「デファイアント」を1986年に中型モデルとして復活させたのが、「デファイアント アンコール」(のちのアンコール)でした。厳しい排ガス規制に対応すべ

く生まれたデファイアントアンコールは、触媒を利用したキャタリティック燃焼システムや水平燃焼システムといった優れたテクノロジーを育て、驚異的な燃焼効率で絶大な支持を獲得。その後、触媒を搭載したデファイアントも発売され、バーモントキャストिंगスの「顔」となるモデルになりました。そして2013年、伝統のスタイルを継承しつつ燃焼方式を進化させた「フレックスバーン燃焼システム」を確立しました。

※アメリカの薪ストーブの歴史において、重要な役割を果たした「デファイアント」の初代モデルは、スミソニアン博物館に常設展示されています。

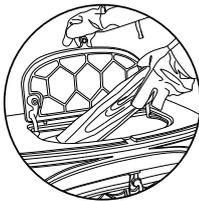
## 各部名称





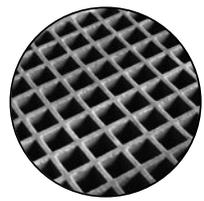
#### ■ トップドア (クッキンググリドル)

開閉式のトップドアから楽な姿勢で安全に薪の補充ができます。また、このクッキンググリドルは、レンジとしてデザインされています。



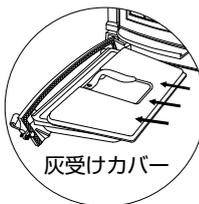
#### ■ 触媒式 (キャタリティックコンバスター)

触媒式排煙再燃焼装置 (キャタリティックコンバスター) を採用。煙に含まれるクレオソートやスス等、副生成物の 90% を浄化。クリーンな排気を達成すると共に、約 25% の薪を節約します。



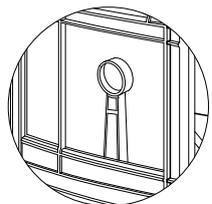
#### ■ 灰受け皿

灰はグレートの間隙から灰受け皿に落とすことができますので、かき出す手間がかかりません。さらに、たまった灰は灰受け皿ごと取り出すことができる構造。手や床を汚すことなく簡単に処理できます。



#### ■ アンダアイアン

燃焼中、フロントドアを開ける際に、薪がこぼれ落ちてくるのを防ぎます。また、ドアガラスの保護、燃焼空気の対流層を確保する役目も担っています。



# 薪ストーブの基礎知識

## 3

### 機能と特長

薪ストーブの基礎知識

アンコールとデファイアントの燃焼室には、触媒燃焼とクリーンバーン燃焼システムを融合させたフレックスバーン燃焼システムが搭載されています。

#### ■一次燃焼

火力調整レバーによりコントロールされる空気は、本体背面にある給気口からフロント上部へ向かって複雑な経路をたどりながら暖められ、燃焼に適切な状態で薪燃焼室に流入し、燃焼を制御します。これが一次燃焼です。

一次燃焼は取り込まれる空気量により燃焼速度が変化し、空気量が多いほど炎は強く、少ないほど弱くなります。空気の調整は単に温度を上下させるだけと考えられがちですが、薪が燃焼する過程と状態で適切に制御されることも重要となります。

#### 一次燃焼の付随機能

##### • エアウォッシュ機能

一次燃焼空気は、ドアガラスの表面を流れ、燃焼室に供給されるため、ガラスにススが付きにくくなります。

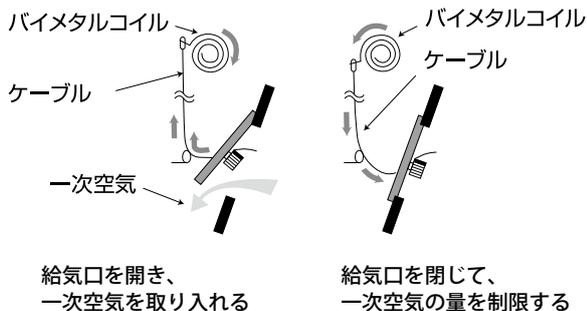
##### • 自動温度調節機能（サーモスタット）

アンコール／デファイアントには火力調整レバーでどの位置をお選びになっても、その温度域で安定した熱出力を維持することができる自動温度調節機能が装備されています。薪が燃焼する過程に応じて、パイメタルコイルはストーブ内部から放射される熱に反応し、一次空気の取り入れを自動調整します。

火の勢いが強くなり熱の出力が高まると、パイメタルコイルがゆっくりと給気口を閉じ、出力がそれ以上にならないように働きます。火の勢いが弱くなり熱の出力が減少すると、パイメタルコイルはゆっくりと給気口を開き、出力がそれ以下にならないように働きます。この強弱作用は継続的に働き、燃料が燃え尽きるまで続きます。

温度が下がると

温度が上がると



#### 【バイパスダンパーの役割】

ストーブの左側にあるバイパスダンパーハンドルを操作して、薪燃焼室から排出される煙の排気経路を切り替えます。

着火時や薪を追加するときは、バイパスダンパーを開き、直接煙突に煙を誘導する「垂直燃焼モード」で運転します。垂直燃焼は着火や薪の追加時に、燃焼に勢いを付けてくれるので、ストレスなくスタートすることができます。

薪燃焼室で発生する排ガスには未燃焼物質が含まれています。燃費や暖房効果を効率よく、またクリーンな排気を行うために、バイパスダンパーを閉じ、薪燃焼室裏にあるガス燃焼室へ煙（未燃焼物質）を誘導する「水平燃焼モード」で運転します。ガス燃焼室には空気による二次燃焼と触媒（キャタリティックコンバスター）による三次燃焼システムが備えられています。

#### ■二次燃焼（クリーンバーン）

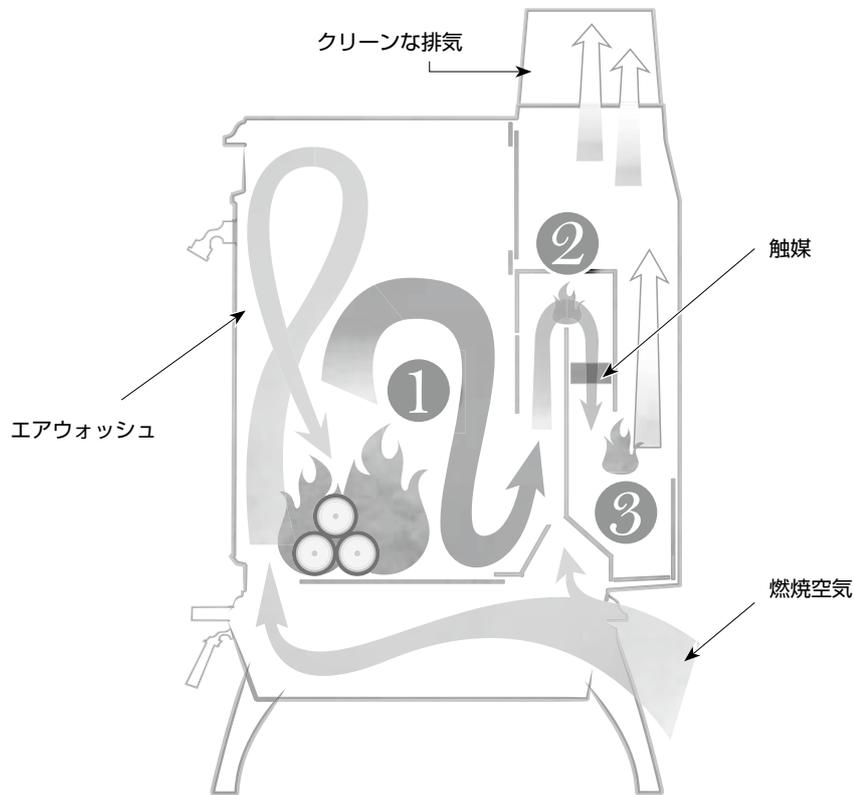
バイパスダンパーによりガス燃焼室に誘導された未燃焼ガスは、経路の各部から放出される空気によって再燃焼します。未燃焼ガスが適切に再燃焼する条件はガスと空気の混合状態と発火する温度に大きく支配されますが、ガスと空気はガス燃焼室内の複雑な経路から生み出される乱流によりよく混ざりあい、薪燃焼室の熱を受けて再燃焼し、効率のよい暖房効果を得ることができます。

#### ■三次燃焼（触媒燃焼）

クリーンバーン燃焼ゾーンの先には、クリーンな排気に絶大な効果を発揮する触媒が備えられています。通常、ガスの燃焼には500℃に及ぶ温度が必要となりますが、触媒を用いるとその作用により260℃前後の低い温度域から発火させることができます。

この触媒燃焼が効率よく機能しているときには、煙が透明に近い状態までクリーンに排気させることが可能です。

## ● フレックスバーン独自の燃焼方式



### 3つの燃焼

- ① 一次燃焼：Primary burn 薪を燃やす
  - 一次空気による薪燃焼
- ② 二次燃焼：Secondary burn ガスを燃やす
  - 追加された空気により未燃焼ガスを再燃焼
  - 触媒に届く前に76%以上の燃焼効率達成
- ③ 三次燃焼：Tertiary burn ガスを燃やす
  - さらに残った未燃焼ガスが触媒を通過し、燃焼効率は84%以上。クリーンな排気を行う

# 設置

## 4

### 据え付け場所の選定

設置

#### ⊘ ご自身による据え付け・移設工事の厳禁

据え付けや移設工事は販売店、または専門業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。設置については別紙の「工事説明書」の他、火災予防条例、建築基準法などの法令の基準があります。これらに従わない場合、火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。

#### ●次の場所には据え付けしないでください。

- 水平でない場所、不安定な場所
- ストープの上に物が落下する場所
- 可燃性のガスや液体を保管、または溜まる場所
- 乾燥室、温室、飼育室など人がいない場所
- 避難口など、避難の支障となる場所
- 付近に燃えやすい物がある場所
- ホコリや湿気の多い場所
- 化学薬品を使用する場所
- 14.5m<sup>3</sup>未滿の閉鎖された空間
- アルコーブ(床の間のような窪み)内
- 天井高が2.4m未滿の場所
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取り入れ口のない場所。または換気の行えない場所

### 床の保護(炉台の寸法)

#### ❗ 設置の床を必ず保護する

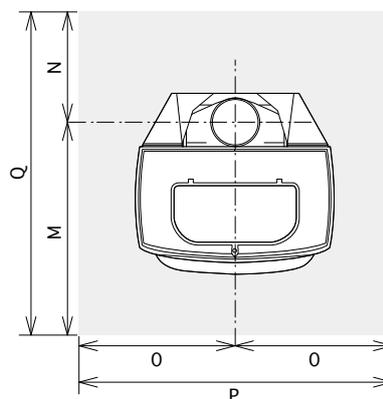
ストーブを据え付ける床を不燃材料で防火上有効に保護してください。また、ストーブの底部に付属品のボトムヒートシールド(遮熱板)を必ず取り付けてください。床の保護を怠ると燃えた炭の落下や輻射熱で、火災の原因になります。

#### ●不燃材料

本体重量に長期間耐えられる不燃材料を敷いてください。不燃材料は熱抵抗値Rが、アンコール0.187m<sup>2</sup>K/W以上、デファイアント0.187m<sup>2</sup>K/W以上になる厚みが必要です。炉台には隙間が生じないように目地にはモルタルをつめてください。

(単位: mm)

モデル名	前面M	後方N	側面O	幅P	奥行きQ
アンコール	940以上	305以上	547以上	1094以上	1245以上
デファイアント	930以上	340以上	610以上	1220以上	1270以上





# 設置

## 4

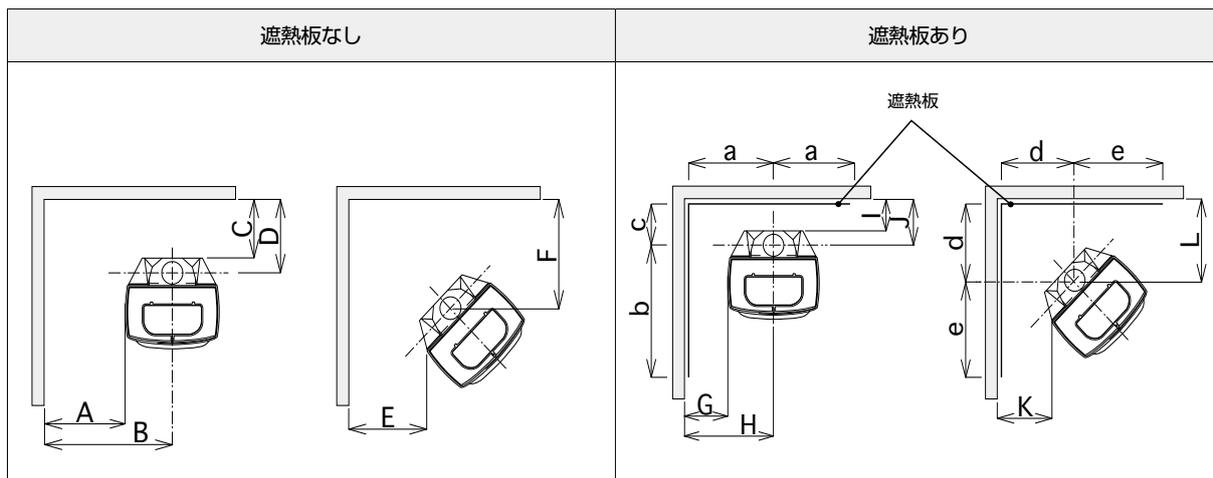
### 壁の保護と離隔距離

設置

#### アンコール 6、および 8 インチ

- ストープを設置する居室の壁、および天井の仕上げは建築基準法等に定められた基準に従い、ストーブの熱を受け、火災の発生するおそれがある部分を不燃材料で防火上有効に保護してください。
- 機種別に壁の仕上げと遮熱板\*の有無により離隔距離が異なります。ストーブから周囲の可燃物との離隔距離は、壁の仕上げと遮熱板の有無により下記に定めた離隔距離が決められています。

\*遮熱板とは 25mm 以上の空気層のある特定不燃材壁



#### ■ メーカー離隔距離

建築基準法施行令の内装制限により、壁、天井を木材等の可燃下地材に準不燃材の仕上げを施した場合、および平屋、最上階など内装制限の規制を受けず、壁の仕上げが木材等の可燃材である場合は下表に示された数値以上の離隔距離を設けてください。仕上げと下地が不燃材料の場合は除外されます。

(単位：mm)

遮熱板なし						
本体離隔距離	A	B	C	D	E	F
	483	826	381	481	470	640

遮熱板あり						
本体離隔距離	G	H	I	J	K	L
	241	584	191	291	305	475
遮熱板の幅	a	b	c	d	e	
	610	954	266	450	770	
遮熱板の高さ	a	b	c	d	e	
	1220					

#### ■ 告示第 225 号離隔距離

内装制限緩和の告示第 225 号に従い、壁、天井を難燃材等（木材含む）の仕上げを施した場合は、下表に示された数値以上の離隔距離を設けてください。仕上げと下地が特定不燃材料の場合は除外されます。

(単位：mm)

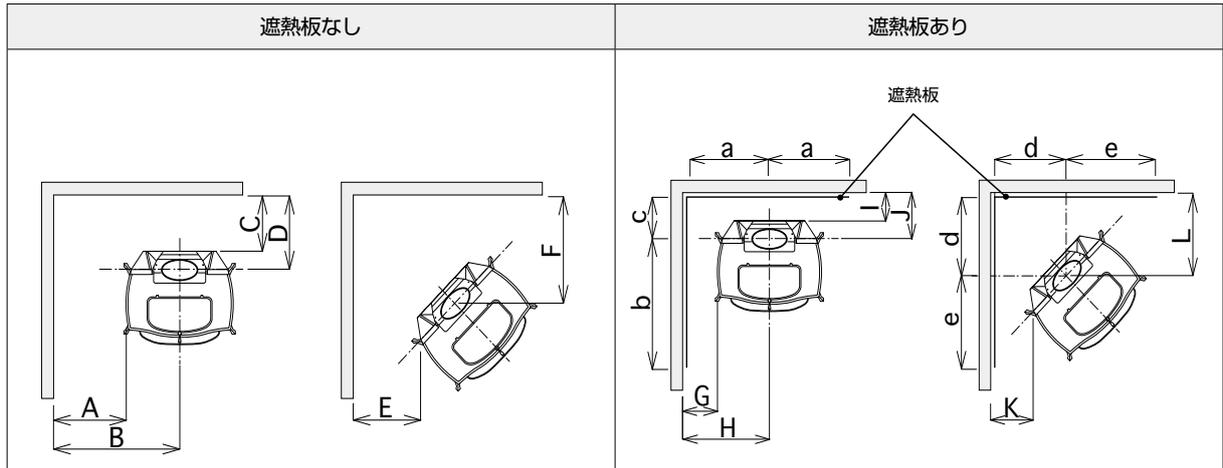
遮熱板なし						
本体離隔距離	A	B	C	D	E	F
	946	1289	1002	1102	1058	1228

遮熱板あり						
本体離隔距離	G	H	I	J	K	L
	316	659	334	434	390	560
遮熱板の幅 (最小離隔時)	a	b	c	d	e	
	1225	1841	409	535	1240	
遮熱板の高さ (最小離隔時)	a	b	c	d	e	
	1525			1530		

## デファイアント

- ストーブを設置する居室の壁、および天井の仕上げは建築基準法等に定められた基準に従い、ストーブの熱を受け、火災の発生するおそれがある部分を不燃材料で防火上有効に保護してください。
- 機種別に壁の仕上げと遮熱板\*の有無により離隔距離が異なります。ストーブから周囲の可燃物との離隔距離は、壁の仕上げと遮熱板の有無により下記に定めた離隔距離が決められています。

\*遮熱板とは 25mm 以上の空気層のある特定不燃材壁



### ■メーカー離隔距離

建築基準法施行令の内装制限により、壁、天井を木材等の可燃下地材に準不燃材の仕上げを施した場合、および平屋、最上階など内装制限の規制を受けず、壁の仕上げが木材等の可燃材である場合は下表に示された数値以上の離隔距離を設けてください。仕上げと下地が不燃材料の場合は除外されます。

(単位：mm)

遮熱板なし						
本体離隔距離	A	B	C	D	E	F
	533	933	381	508	470	742

遮熱板あり						
本体離隔距離	G	H	I	J	K	L
	267	667	191	318	305	577
遮熱板の幅	a	b	c	d	e	
	610	927	293	552	668	
遮熱板の高さ	a	b	c	d	e	
	1220					

### ■告示第 225 号離隔距離

内装制限緩和の告示第 225 号に従い、壁、天井を難燃材等（木材含む）の仕上げを施した場合は、下表に示された数値以上の離隔距離を設けてください。仕上げと下地が特定不燃材料の場合は除外されます。

(単位：mm)

遮熱板なし						
本体離隔距離	A	B	C	D	E	F
	1006	1406	1153	1280	1153	1425

遮熱板あり						
本体離隔距離	G	H	I	J	K	L
	336	736	385	512	385	657
遮熱板の幅 (最小離隔時)	a	b	c	d	e	
	1345	2063	487	632	1308	
遮熱板の高さ (最小離隔時)	a	b	c	d	e	
	1685			1690		

煙突から可燃物の間は下記に定めた火災予防上安全な離隔距離を設けてください。

(単位：mm)

	壁 ※ 3	天井 ※ 3
シングル煙突 (一重室内煙突) 遮熱板 ※ 1 なし	460	762
シングル煙突 (一重室内煙突) 遮熱板 ※ 1 あり	230	
断熱二重煙突 ※ 2	150	150
断熱二重煙突 ※ 2 (自在管)	325	325

※ 1 遮熱板とは 25mm 以上の空気層のある不燃材壁。

※ 2 断熱二重煙突は煙突火災に対する熱衝撃テストに合格した認定品 (UL103、BS EN1856-1) をご使用ください。

※ 3 離隔距離は内側煙突からの寸法。

#### ●据え付け後の確認

煙突の据え付け状況は住宅の構造などにより異なります。点検や煙突掃除など、後の保守メンテナンスの方法については、販売店、または据え付け業者とよくご相談ください。

#### ●既存の煙突にストーブを据え付ける場合

既存の煙突にストーブを据え付けた場合に、隠れた瑕疵により排気漏れや火災が発生するおそれがあります。必ず販売店にご相談ください。

#### ●煙突のドラフト (排気) 性能

排気の流れを生み出す力を「ドラフト」と呼びます。機械的ではない自然なドラフトによる薪ストーブの燃焼では実に多くの要件によってその効果がもたらされます。

詳しくは 30 ページ「ドラフト管理」をご確認ください。

#### ⚠ 警告

ストーブを据え付ける部屋の気密が高い場合で、部屋の換気設備やストーブの他に空気を必要とする機器の影響により、ストーブが燃焼に必要な空気量を十分に取込めないと、不完全燃焼が起こる他、一酸化炭素等を含んだ煙が部屋に漏れて、健康に害をおよぼすおそれがあります。

一酸化炭素検知機能の付いた火災警報器の取り付けをおすすめします。

ストーブを設置する部屋の壁などには、ストーブの燃焼に必要な空気量を不自由なく取り込めるように屋外へ直接通じる給気口や給気ダクトを設けてください。屋外側の給気開口部はゴミや雪などでストーブの燃焼が妨げられない場所に設けてください。

床、もしくは壁の給気開口から本体空気取入れ口までの接続方法については、部屋の換気設備の種類などにより異なりますので、お買い上げの販売店にご確認ください。

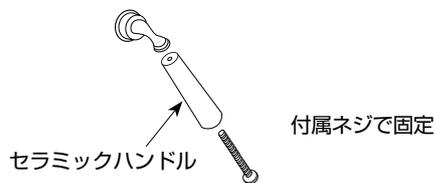
## ハンドルの取り付け

### ● フロントドアハンドル

フロントドアのハンドルは、本体に固定して使用する方法と脱着式での使用方法をお選びいただけます。脱着式は、ハンドルが熱くなるのを避けたい場合、また小さなお子様などが誤ってドアを開けないようにする際にお使いください。

#### ● 本体に固定する場合

セラミックハンドルをお使いください。木製ハンドルは焦げるおそれがありますので、ご使用はおやめください。

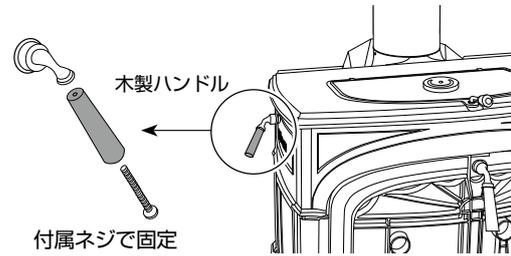


#### ● 脱着式で使用する場合

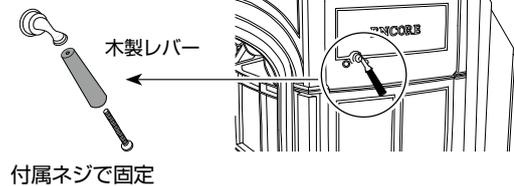
イラストの木製ハンドルをお使いください。



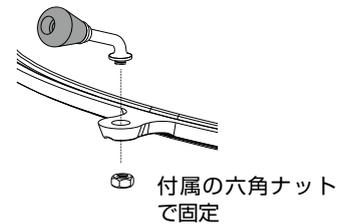
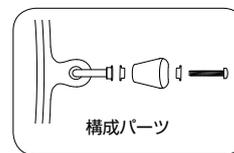
### ● バイパスダンパーハンドル



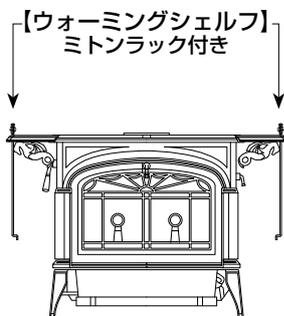
### ● 火力調整レバー



### ● トップドアハンドル

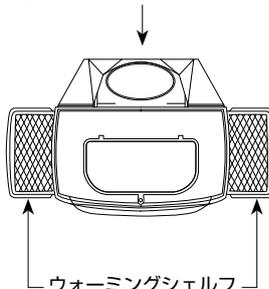


## オプション

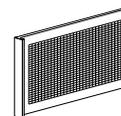


料理を温めたり、トップドアから薪をくべる時に、鍋などを置くことができます。

【8インチフルカラー】  
8インチ煙突を接続する時に  
使います。  
(オプションはアンコールのみ)

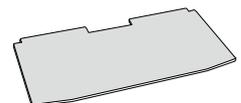


【給気フィルター】  
ホコリをキャッチし詰  
まりを防ぎ、メンテナ  
ンスを簡便にします。



## アクセサリ

【オーブンプレート】  
灰受け皿の中で、また  
はストーブ内でオーブ  
ン料理をする時にグ  
レートの上に敷き、使  
用します。



# 薪について

## 5

### 使用する薪の条件

薪について

#### ⊘ 自然薪以外の燃料使用禁止

乾燥した自然の薪以外は燃やさないでください。化学物質や塩分等が含まれている薪は、有害物質が発生し健康に害をおよぼすほか、破損の原因になります。

#### ⊘ ガソリン厳禁

ガソリン、軽油、灯油、またはオイルなど引火しやすい油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

#### ●薪の乾燥

切られてすぐの生木は、重量の50%が水分です。薪として燃やすには水分を20%以下まで乾燥させる必要があります。薪は割ることにより空気に触れる表面積が大きくなるのでより早く乾燥させることができます。

割った薪は風通しが良く雨のあたらない屋根の下で、少なくとも12～18ヶ月は乾燥させてください。薪は太さや樹種にもよりますが、冬に切って2年間乾燥させた薪が理想の薪といえます。

乾燥していない薪は、薪ストーブの性能を十分に引き出すことができません。暖まりにくく、燃やすとクレオソートやススが多く発生し煙突内に付着するので、煙突掃除をこまめにしなければ「煙突火災」の原因になります。またドアガラスの汚れの原因にもなります。



↑含水率計  
針を薪に差し込むと薪の乾燥度がひと目でわかります。

#### ●薪の種類

薪は針葉樹系の軟木と広葉樹系の堅木とに分けることができます。軟木は乾燥しやすく着火力に優れていますが、火持ちがよくありません。堅木は、その逆の性質をもっています。十分に乾燥していても、なおズッシリと重い薪が質量に富み、暖房用には優れた薪といえます。

#### ●使用する薪のサイズ

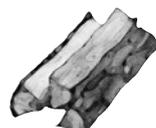
●各種類の炉内に投入できる薪の長さは次のとおりです。

アンコール	55cm以内
デファイアント	63cm以内

温度や燃焼時間を調節するために、大きく分けて「焚き付け用」「中くらい」「長時間用」の3種類の薪を用意します。たき火の火を起こす時のように細い薪や枯れ枝に着火し、徐々に太い薪をくべていきます。薪を使い分けることで、薪ストーブの温度や燃焼時間を調節しやすくなります。



焚き付け用の細い薪  
(小枝や細く割った針葉樹など)



中くらいの薪  
(直径約5cm以内の小枝や細く割った針葉樹など)



長い時間燃やすための太い薪  
(直径約10cm以上の広葉樹など)

**注意** 屋外で保管されていた冷たい薪をすぐにストーブにくべないでください。燃焼状態が悪くなり暖房効率が落ち、ストーブに熱衝撃を与え破損することがあります。室内で半日以上経過した薪をご使用ください。

堅木		軟木	
火持ちがよく暖める力が大きい		火持ちはよくないがすぐに火力がでる	
(広葉樹)	(針葉樹)	(針葉樹)	(広葉樹)
・ミズナラ	・ニレ	・カラマツ	・シラカバ
・コナラ	・カキ	・アカマツ	・ポプラ等
・クヌギ	・クスノキ	・スギ	
・アカシア	・サクラ等	・ヒノキ等	
・ブナ			



詳しくは  
ホームページで

「薪づくり」

### ●グレンスフォッシュ・ブルーク



【手斧】

片手用の小型斧。焚き付け用に薪を細く割ったり、細枝を切ったりするのに便利。



【薪割り鉋<sup>つち</sup>】

斧頭が鉋を兼用する薪割り。割れにくいときは、この斧頭で楔を打ち込んで割ります。



【小型薪割り】

両手、片手兼用の薪割り。小径木の玉割り材を割るときに。



【薪割り楔<sup>くさび</sup>】

薪割りでは割りにくい薪を割るための鋼鉄製の楔。2本の楔があれば、ほとんどの薪を割ることができます。



【大型薪割り】

両手用の本格的な薪割り。



### ●キンドリングクラッカー

焚き付けが安全に、しかも手軽に作れます。

動画で  
Check!



「キンドリングクラッカーの  
使い方」

### ●薪を入手するためのヒント

- ・地元の森林組合、または営林署に問い合わせで購入する。
- ・薪業者（燃料屋）から購入する。
- ・チップ工場に問い合わせるか、原木を納入している業者に卸してもらう。
- ・果樹園で剪定した木を譲ってもらう。
- ・山林地主と知り合いになり、間伐材を譲ってもらう。
- ・地元の役場に問い合わせ、公園の木や街路樹の剪定枝を払い下げてもらう。
- ・近所で家の新築工事があったら、大工さんにかけてあって端材を譲ってもらう。

# 焚き方と燃焼維持

6

焚き方と燃焼維持

## ❗ 慣らし焚きの必要性

ストーブを焚き始める前に、必ず「慣らし焚き」を行ってください。焚きはじめの数回は、ストーブと煙突に塗られている錆び止め油や塗料が熱せられ、においと煙が発生しますので、窓や戸を開けて室内の換気を行ってください。いきなり高温で使用すると、破損のおそれがあります。

## ⚠ 高温やけどに注意

燃焼中や消火直後はストーブ、および煙突が高温になりますので、手などを触れないでください。やけどの原因になります。ストーブを操作する際は、必ず燃えにくく断熱効果のあるグローブを着用してください。

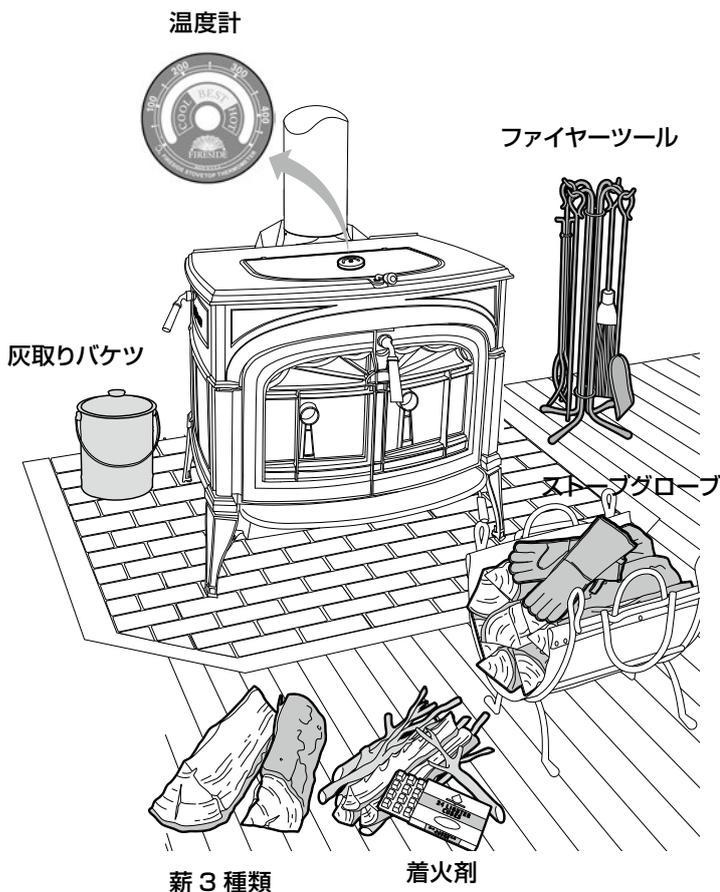
## ⊘ フロントドアを開けたままの使用禁止

フロントドアを開けたまま使用しないでください。また、フロントドアが閉まらないような長い（太い）薪は燃やさないでください。煙や火の粉が室内に漏れたり、火がついた薪が室内に転がり落ちるなどして、火災の原因になります。

## ❗ 換気扇使用時のご注意

ストーブの燃焼中に換気扇を使用すると、ストーブや煙突接続部から室内に煙が漏れることがあります。異常に気付かれた場合には換気扇を止め、販売店にご相談ください。

## 着火の前に用意するもの



### ● 温度計

ストーブの状態を知るのに欠かせないツールです。危険な過燃焼を防ぐために、火力調整操作のタイミングの目安になります。

### ● ファイヤーツール

- 火かき棒 / 炉の中の薪の位置を変えたい時に
- スコップ / 灰をすくう時に重宝します
- ほうき / ストーブまわりのお掃除に
- 灰かき棒 / 炉の中の灰を灰受けに落としたり、灰をかき集めるのに使います
- 薪ばさみ / 炉内に薪を入れる時に

### ● ストーブグローブ

熱に強い革素材の物が適しています。薪をくべる時やハンドルなどの操作時に熱から手を保護してくれます。

### ● 灰取りバケツ

密閉できる金属製の容器を必ず使用します。

### ● 着火剤

### ● 薪 3 種類 (P.20 ページ)

## 慣らし焚きについて

- 本格的な運転を行う前に、必ず慣らし焚きを行ってください。  
(☞ 23 ページ「着火」 ①～⑦)
- 焚きすぎの目安となる情報を得るために、運転中は必ず温度計をご使用ください。
- 炉内のインナーパネル等の耐火パネルは衝撃に弱い素材です。薪の投入時や灰の処理に使用する道具の先端などで傷つけないようご注意ください。
- 乾燥が不十分な薪は燃えが悪く暖房効率を低下させるばかりでなく、燃焼室の各パネル等を破損させる可能性がありますので、乾燥した薪をご使用ください。

### ● 慣らし焚きの目的

- 塗料、および接着剤(モルタル)を硬化させる
- 熱による膨張伸縮により組み立て部品を馴染ませる
- 適正なドラフトが得られるかを確認する  
(☞ 24、30 ページ)
- 焚き方に慣れるための試用的な運転



新品の本体、および煙突は塗料が完全に硬化していません。慣らし焚きの熱により塗装が徐々に硬化していきますが、完全に硬化するまで塗装の表面から臭いと煙が発生しますので、窓や戸を開けて室内の換気を行ってください。

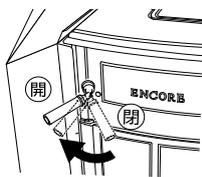
## 着火

### 焚き始める前に

- 部屋の給気口(レジスター等)を開けてください。
- ファイヤーバックの空気吹き出し口(☞ 45 ページ)に詰まりがないか確認してください。空気吹き出し口がふさがっている場合には45 ページ②に従い清掃を行ってください。その際、灰も除去してください。

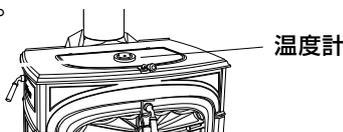
「慣らし焚き」は、「着火」の①～⑦の手順で行ってください。

- ①** バイパスダンパーハンドルを後方に押し、ダンパーを開けます。



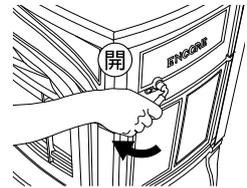
**注意** 「慣らし焚き」の間は、バイパスダンパーを開けたままにしておきます。

- ②** 温度計をトップドア(クッキンググリドル)の中央に置きます。

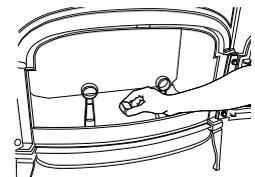


**注意** 運転に必要な温度情報(バイパスダンパー開閉のタイミングや焚きすぎの目安)を得る場合、温度計は必ずトップドア(クッキンググリドル)の中央付近に置いてください。

- ③** 火力調整レバーを手前に引き全開にします。



- ④** フロントドアを開け、着火剤1～2個を入れます。



- ⑤** 着火剤の上に4～5本の「焚き付け用の薪」をのせます。

- ⑥** 隙間をあげながらさらに2～3本の「中くらい」の薪を組みます。

**ポイント** 燃焼空気の通りが良くなるように隙間をあげて薪を配置してください。



動画で  
Check!

「ストーブを焚こう」

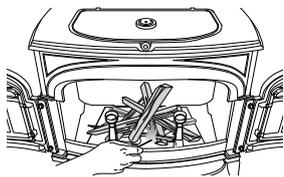
# 焚き方と燃焼維持

## 6

### 着火

焚き方と燃焼維持

- 7** 着火剤に点火してください。薪に着火したことを確認したらフロントドアを閉めます。



投入した全ての薪の表面に炎が完全に行き渡ったら、炎の状態と温度計を確認しながら火力調整レバーで燃焼速度を制御してください。

- 慣らし焚きの場合 …… 260℃以下
- 慣らし焚きが終えている場合 …… 200～350℃

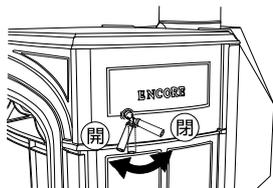
#### ● 火力の調整方法

本体右サイドの火力調整レバーで調整します。

**強くする** 火力調整レバーを前方に引くと、火力が上がります。

**弱くする** 火力調整レバーを後方に押すと、火力が下がります。

※レバー調整後、火の勢いが変わると給気口が自動的に開閉し、火力を一定に保つよう働きます。



慣らし焚きの場合は、これ以上薪を入れるのをやめ、薪が燃えつきるまで放置してください。3～4回繰り返して慣らし焚きは終了です。

#### 補足 上方より着火する方法

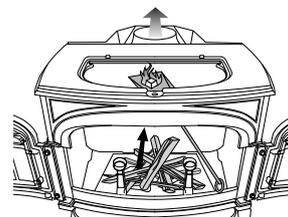
**4～7**に代わり、組んだ薪の上から下に火を移していく着火方法があります。グレートの上に「中くらいの薪」その上に「焚き付け用の薪」を組み、最後に着火剤を組んだ薪の上に置いて着火します。この方法は、着火初期の煙の排出量を抑える効果がありますが、十分な焚き付け用の薪（場合によってはさらに細かな小枝など）が必要です。

「慣らし焚き」終了後の通常の着火手順は、**1～7**のあと、**8**に進みます。

#### 【ドラフト(上昇気流)を起こす】 うまくつかない、燃えない、逆流する…そんな時は

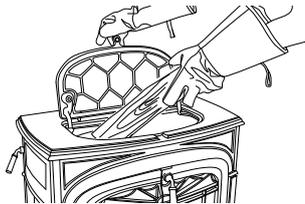
煙突が冷えていると、ドラフト(上昇気流)が弱く、うまく着火しない、燃えない、逆流するなどの問題が起こる場合があります。このような場合は、バイパスダンパー付近に火をかざし煙突をよく暖め、ドラフトを発生させる手助けをします。慣らし焚きの手順**8**の段階で右の手順で煙突を暖めてください。

- 1** ファイヤーツールのシャベル等の上で着火剤を燃やします。
- 2** トップドア(クッキンググリドル)を閉め、フロントドアを開けた状態で、バイパスダンパー付近に着火剤をかざし、煙突をよく暖めます。
- 3** ドラフトが発生したら着火方法**7**に従い、薪の着火を始めます。



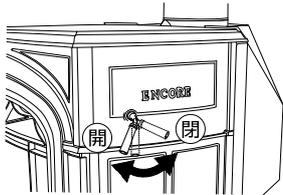
**ポイント** ドラフトが発生すると着火剤の火が煙突方向に引き寄せられます。

- 8** 薪が燃えているうちに、トップドア（クッキンググリドル）をゆっくり開け上から中くらいの薪を数本足しドアを閉めます。投入された薪に速やかに火が移るように、火力調整レバーを「開」の方向（手前）に動かします。



- 9** 薪が全体に勢よく燃えてきたら、炎の状態と温度計を確認して 200～350℃の範囲で過剰燃焼にならないように火力調整レバーを操作します。

📖 24 ページ「火力の調整方法」

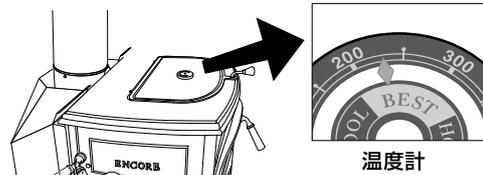


少なくとも5～7センチの深さの赤々としたおき床が全体にできるまで、このサイズの薪を追加し続けます。適切な機能を得るためには良い火床が必要です。おきがたまり、ストーブが全体に暖まるまで1時間以上かかります。

**注意** ストーブ内に薪をいっぱい詰めないでください。アンダイヤンより上にならないようにしてください。

- 10** おきがたまったら、トップドア（クッキンググリドル）をゆっくり開け、火床全体をならします。太い薪を数本くべ、ドアを閉めます。細い薪を数本一緒に入れると早く薪に燃え移らせることができます。

- 11** 数分後、温度計が 230℃を超えたら、バイパスダンパーを閉めます。バイパスダンパーを閉める際は、ハンドルがロックするまでしっかり回転させてください。



- 12** 火力調整レバーを「開」のまま5～15分くらい燃やします。その後火力調整レバーを調整します。

**注意** バイパスダンパーを閉めてから、すぐに火力調整レバーを閉じると触媒で異常燃焼することがあります。（📖 28～29 ページ）

**注意** 各ドアを開けたまま使用してはいけません

ストーブの各ドアを開けたまま運転すると、過剰なドラフトを引き起こす、もしくは室内に煙が漏れる原因になります。燃焼中はドアを閉めた状態でご使用ください。

### ⚠️ 焚きすぎ注意

- 燃焼炉内に薪を入れすぎないでください。
- ストーブ天板の温度は 350℃以上で使用しないでください。一時的に越えても問題ありませんが、連続して 350℃以上で使用すると、ドアを開けたときに炎が漏れる、またはストーブや煙突が過熱され、破損の原因になります。
- ストーブが部分的に赤熱している時は過剰燃焼です。火力調整レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。

### ⊘ ドアを同時に開けない

トップ、およびフロントのドアを同時に開けないでください。炎や火の粉が室内に漏れて、やけどのおそれがあります。

### ❗ トップドアで手を挟まない

トップドアから薪を投入する際は、ハンドルから手を離さないようにしてください。手を離すとトップドアが倒れ、やけどやケガのおそれがあります。

# 焚き方と燃焼維持

6

着火

焚き方と燃焼維持

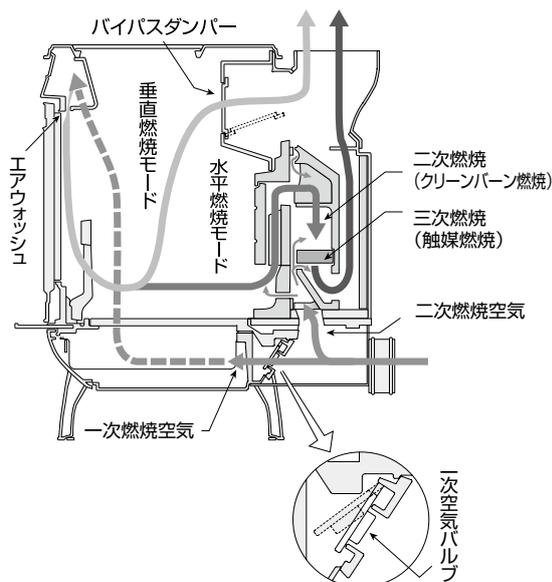
## ● 2つの燃焼モード

### 垂直燃焼モード

着火・薪の補充の燃焼立ち上げ時にバイパスダンパーを開けて燃焼させるモードです。煙はバイパスダンパーを通り煙突に導かれます。薪は全体に燃えます。

### 水平燃焼モード

ストーブトップが 230℃以上になってからバイパスダンパーを閉めることにより、煙が本体背面のガス燃焼室に導かれ再燃焼します。薪は下の方から徐々に燃えます。



## ● 温度計の温度について

175℃  
以下

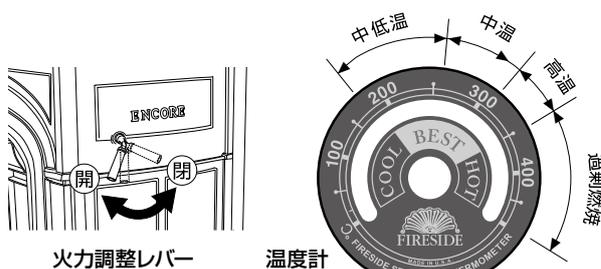
火力が弱いです。火力調整レバーで燃焼出力を上げるか、ストーブに薪を補給する温度です。

230℃

ストーブ温度はガス燃焼室内での燃焼を開始する温度に達し、バイパスダンパーを閉める温度です。

350℃  
以上

過剰燃焼です。火力調整レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。



火力調整レバー

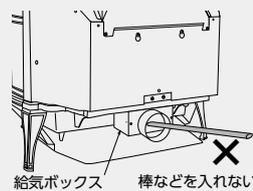
温度計

### 温度目安

175～260℃ 中低温  
260～315℃ 中温  
315～350℃ 高温

**ポイント** 通常の運転温度は 200～350℃の間です。温度計がこの範囲を示すように火力調整レバーを操作してください。

**注意** 誤って給気ボックスから棒を差し入れるなどし、一次空気バルブが開放したままになると、温度制御ができなくなりたいへん危険です。火災につながりますので絶対に行わないでください。



お客様のストーブの設置状態により、火力調整レバーの位置と温度の関係は異なります。「薪の質」や「煙突のドラフト(上昇気流)の状態」などにも左右されます。ドラフトは煙突の長さ、種類、設置状況、地形、付近の障害物など様々な要因に影響されます。ストーブを初めて使う際は、火力調整レバーの記録を取ることをお勧めします。特定の設定で一定の熱量を得る方法が分かります。1～2週間ほどで、個々の設定から得られる熱量と燃焼時間を判断できます。

## ● 煙突ダンパーの設置

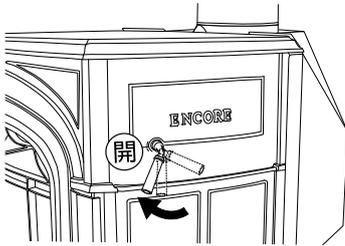
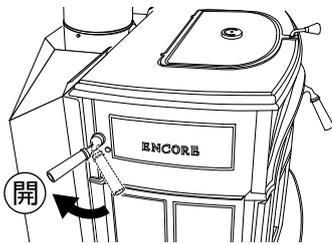
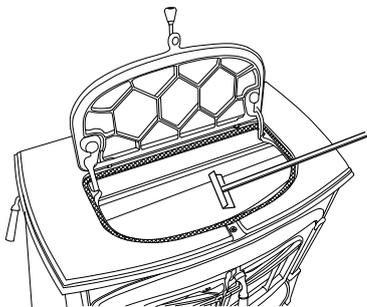
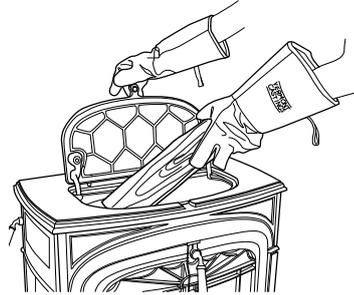
状況(煙突・薪・気温など)によって、ドラフトが強すぎる場合があります。煙突ダンパーはドラフトを適正に制御することが可能です。( 32 ページ)

## 薪の追加

**1** ドアを開ける前に必ずダンパーを確認

ご使用中にトップ、およびフロントのドアを開ける前に、必ずストーブのバイパスダンパーを開けてください。炎や火の粉が室内に漏れて、やけどのおそれがあります。

**ポイント** 着火に十分なおきがストーブ内に残っている間に薪を補充します。

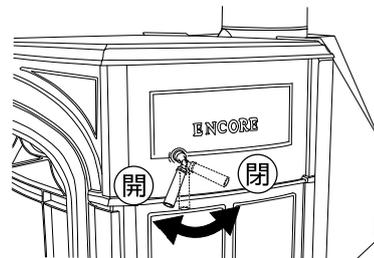
**1** 火力調整レバーを「開」にします。**2** バイパスダンパーを開けます。**3** トップドア(クッキンググリドル)をゆっくり開け、ファイヤーツールでおきを広げます。**4** 薪を補充して、ドアを閉めます。

**ポイント** 「中くらいの薪」をくべた上に「太い薪」を足します。こうすることによって、ストーブが燃焼温度を素早く回復できます。

**注意** 長時間燃やすために多量の薪をくべる時には、なるべく太い薪(直径10cm以上)を入れてください。細い薪を多量に入れると高い温度での燃焼が続き、触媒(キャタリティックコンバスター)が劣化するおそれがあります。薪をくべるときにはガラスに当たらないように注意してください。破損や汚れの原因になります。

**5** 温度計が230℃以上になったら、バイパスダンパーを閉めます。**6** 数分後、火力調整レバーを調節します。

☞ 24 ページ「火力の調整方法」



# 焚き方と燃焼維持

6

消火

触媒 (キャタリティックコンバスター) について

焚き方と燃焼維持

## ❗ 外出前の消火

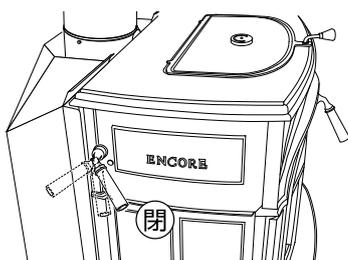
事故防止のために、お出かけの際はストーブの火が消えていることをご確認ください。予想しない事故が発生するおそれがあります。

薪ストーブは、ガスストーブや石油ストーブのように瞬時のうちに消火することはできません。薪が燃えつきた時が消火を意味します。

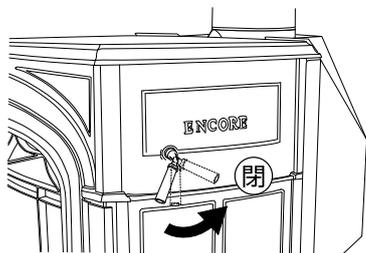
### 注意

ストーブ本体や炉室内に水をかけて消火するのは非常に危険です。また、このような急激冷却による消火はストーブ本体に重大な損傷をもたらします。緊急時の処置 (P.8 ページ)

## 1 薪ストーブを消火する時は薪を追加するのをやめ、バイパスダンパーを閉じます。

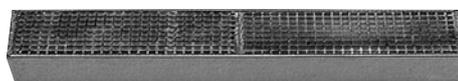


## 2 火力調整レバーを閉めます。燃焼空気の供給が少なくなり、火の勢いが徐々に落ち、ゆっくりと燃えつきます。



### 注意

レバーを閉めても燃焼空気の供給は完全に遮断されません。燃焼空気を遮断して消火することはできません。燃えつきるには時間がかかります。



薪が燃焼するのに必要な条件は、十分な温度と酸素です。薪は燃焼の過程で熱分解により可燃性ガスを放出し、適切に空気と混合された状態で発火する温度に達すると燃焼が起こります。通常の燃焼反応は炉内の火炎、おきなどの熱を受け概ね 540～650℃の範囲で起こりますが、触媒 (キャタリティックコンバスター) を用いるとその作用により 260℃前後の低い温度域から発火が始まります。

触媒はそれ自体変化しませんが、可燃性ガスの酸化反応を早め燃焼の効率を上げる働きがあります。触媒はセラミックス製のハニカム構造 (蜂の巣) で、表面には触媒物質となる白金、またはパラジウムがコーティングされています。触媒反応を得るには、可燃性ガスと空気の混合気体が被膜表面に接触することが必要になり、接触する表面積を多くすることで反応が促進され、高い効果を得ることができます。このことから触媒の形状はハニカム構造 (蜂の巣) になっています。

触媒の機能低下の症状は、煙突から出る煙の状態が目安になります。効率よく機能しているときには、煙が無色で透明に近い状態ですが、低下してくると灰色になります。触媒の機能低下には次の様な原因があります。

## ●目詰まり

ハニカム構造は効率の良い触媒反応を得られる一方、排気の流れに対する抵抗が増すこととなります。また表面積が多い分、クレオソートやススが堆積する場所も多くなります。適切な操作を行い、このような堆積物を最低限に抑え、目詰まりの兆候がないか定期的に点検することが必要です。

## ●化学物質

塗装、防腐処理、接着剤が含まれた合板などの木材や、色紙、金属ホイル、プラスチックなどを燃やすと、化学物質が触媒の表面に付着します。化学物質で触媒表面の被膜が覆われていると触媒反応は正常に機能しないばかりか、触媒の劣化、または破損の原因になります。乾燥させた自然の薪以外は絶対に使用しないでください。

## ●熱衝撃

触媒（キャタリティックコンバスター）は直接の炎にさらされるようには設計されていません。ストーブを過剰燃焼し続けると、表面の触媒物質が剥がれ、反応の妨げや破損の原因になります。ストーブは炎が直接触媒に接触しない設計になっていますが、火力調整レバーを全開にして長時間の高温状態が続く、ドアを開けて焚く、細かな薪を多量に燃やすなど、強いドラフトが発生している場合は触媒まで炎を引き込んでしまいます。

触媒付ストーブであれば、約 260℃以上の温度があれば未燃焼ガスやクレオソートを減らす効果を十分得られますので、無理な高温燃焼は止めましょう。

## ●一次燃焼空気の不足

ガス燃焼室内における触媒（キャタリティックコンバスター）の役割は、あくまで薪燃焼室内で燃えきらない未燃焼ガスを再燃焼させるための機能です。高い燃焼効率とは燃焼ガスに対する適切な空気量によりクリーンな燃焼を得ることで、ガス燃焼室の構造を持っているストーブの多くは、ある程度薪燃焼室内で燃焼を起すことが重要となります。

例えば、薪燃焼室への空気を必要以上に遮断した場合、二次燃焼では処理できないほどの大量の未燃焼ガスによって、燃焼効率の低下や極度の過剰燃焼につながり、触媒やリフラクトリーエンジンを破損させる原因になります。この場合、火力調整レバーを開けて一次燃焼に必要な空気を供給するか、補充する薪の量を少なくしてください。

🔗 32 ページ 「バックパフィンク」

## ●物理的な破損

触媒（キャタリティックコンバスター）はセラミックス製です。急激な温度変化による破損や、メンテナンス時のお取り扱いには十分注意してください。

ドラフトがどのように触媒に影響するかについては、30～33 ページの「ドラフト管理」をご覧ください。ドラフトが過剰だと、ストーブ内が高温になり、燃焼室や触媒が破損するおそれがあります。一方、ドラフトが不十分だと部屋の中への煙の逆流（バックパフィンク）が起きたり、触媒や煙突、燃焼室が「詰まる」おそれがあります。



# ドラフト管理

7

ドラフト管理

ストーブは使用者、煙突、燃料、そして住宅などから構成される暖房システムの一部です。システムのあらゆる部分がストーブの作動状態を左右します。これらの要素がうまく調和して初めて全体のシステムが適切に機能します。

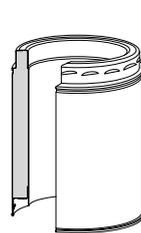
暖炉・薪ストーブの機能は自然のドラフト（上昇気流）で決まります。ドラフトは煙突の周囲の外気温より、煙の温度が高い場合に生じます。その温度差が大きいほど、ドラフト作用も大きくなります。燃焼室内の高温気体が煙突内を上昇していくと同時に、燃焼用の空気をストーブに引き込む吸引力が生じます。

給気口を開くことによって火が活発化する場合は、ドラフトが適切であることを意味します。ストーブの給気口を全開にした状態にもかかわらず、火が活発にならない場合はドラフトを妨げる何らかの問題が疑われます。ドラフトが弱い場合、給気口を開いてもストーブ内に空気を取り入れることができず、火力の調節はできません。

システム構成の中で、煙突はドラフトを支配する大きな要因です。煙突の断熱性能や煙突の直径、煙突のレイアウトなどによって、ドラフトが早く生じる場合もありますし、正常なドラフトが得られる温度差に達するまで時間がかかる場合もあります。特に断熱性能においてはストーブの燃焼室内で発生した高温気体の熱を屋外に排気させるまで保持することが重要になります。以下に煙突の種類による特徴とその効果を挙げます。

## ●シングル煙突（一重室内煙突）

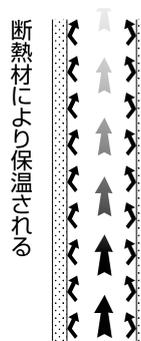
シングル煙突（一重室内煙突）は名前のとおり、煙突の中と外を金属製の板で仕切られた円筒です。よって、煙突内部の熱は外部に放射されやすく、スヤタールなどが煙突内部に付着し排気の抵抗となり、ドラフト効果が弱まります。



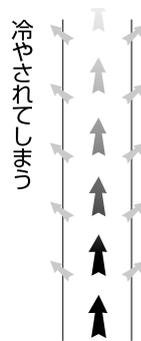
断熱二重煙突



シングル煙突  
（一重室内煙突）



断熱二重煙突



シングル煙突  
（一重室内煙突）

## ●断熱煙突

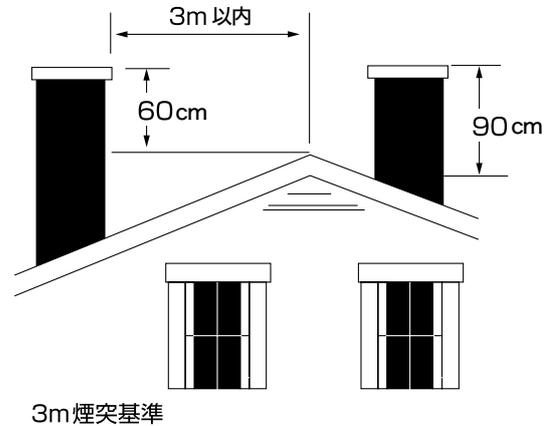
断熱煙突は内管と外管の間に、断熱材が充填された円筒です。断熱層により煙の温度が屋外に排気されるまで保たれ、安定したドラフト効果を得ることができます。断熱煙突はドラフト効果を得るためだけでなく、壁や屋根裏などの貫通部において、防火上重要な役割を果たします。

## ●屋内／屋外の設置

煙突は煙を保温する必要があるため、できるだけ屋内に立ち上げるのが有効です。この方法は、住宅自体が煙突の断熱材の役割を果たし、屋外に熱を失うことがないため、より少ない熱量で煙突を暖め、また保温することができます。

### ●煙突の高さ

煙突の高さは「60cm、90cm、3m 煙突基準」の安全条件を十分満たしていれば、有効なドラフトが得られると考えられています。この基準はドラフトばかりではなく煙突火災時の煙突周り延焼防止になります。煙突の高さは高い方がより良いドラフトを生むと考えがちですが、基準以上に高さを加えることはドラフト問題の正しい解決策ではありません。実際、問題を悪化させることもあります。高い先の方の煙突が冷えてしまうからです。安全基準を満たす必要がある場合や、ドラフトへのマイナス要因を回避する場合を除いて、煙突の高さは（最低 5m）必要以上に伸ばさない方が良いでしょう。



### ●煙突径

煙突の内側寸法は、ストーブの排気口寸法と一致しなければなりません。煙突が気密性のあるストーブに接続される場合、大きめの寸法は好ましくありません。それどころか、不利になる場合があります。煙は膨張により熱を失います。

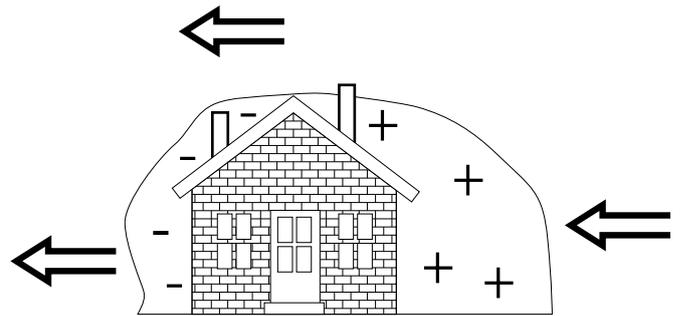
### ●煙突のレイアウト

煙は煙突のトップまで上昇する過程で、曲がりがあるたびに抵抗となり速度が落ちます。理想的な煙突のレイアウトはストーブから垂直に真直ぐ伸ばす方法です。

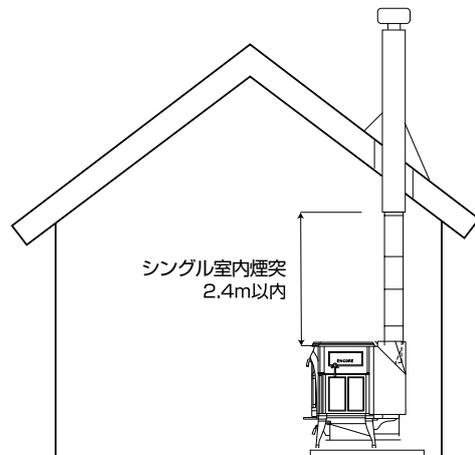
シングル煙突（一重室内煙突）を使用する推奨長さはフルカラーから 2.4m 以内とします。家の断熱性能にもよりますが、これより長いと煙が冷却されドラフトが弱まり、またクレオソートの問題が生じる可能性があります。

### ●単一排気

ストーブにはそれぞれ専用の煙突が必要です。気密性のあるストーブが他の開放型の暖炉やストーブの煙突に接続されている場合、煙突のドラフトは気密性の高いストーブ以外の別の経路から空気を引き込むため、効果が落ちます。ホースに穴が開いた掃除機を仮定すると、この状況をよく理解することができます。場合によっては、煙が逆流するおそれもあります。



※風が吹くと建物のまわりは圧力の差ができます。煙突はこの風圧帯より上まで立ち上げる必要があります。



※ 2.4m 以内の数値は、メーカーの推奨値。現場によって異なりますので、販売店にお尋ねください。

# ドラフト管理

7

ドラフト管理

## ●クレオソート

クレオソートは薪（特に湿った薪）がゆっくり燃焼した時に生じます。クレオソートは煙の濃度が高い、または排気の色が遅く、煙が 130℃以下に冷やされると、煙突内に蓄積する有機タールです。蓄積されたクレオソートは揮発性で、一定の温度以上に加熱されると煙突火災を発生させるおそれがあります。

煙突のドラフトを左右する全ての要素は、クレオソートの蓄積にも影響します。従って、正しい煙突レイアウトと燃焼操作で適切なドラフトを促し、クレオソートの発生を最小限に抑えてください。

## ●燃料

最適な方法でストーブが設置されていても、燃料の質が悪いと効果が出ません。最適な燃料は、12～18ヶ月間乾燥させた堅木です。軟木でもかまいませんが、堅木ほど火持ちが良くありません。

「乾燥させていない」薪は大量の水分を含んでいるため、熱量は薪に残る水分の除去に使われてしまいます。結果的に、暖房にまわる熱量が削減され煙突内部の温度も上がらず、クレオソート発生の原因となります。

薪の乾燥具合を知るには、水分量がひと目でわかる薪用の含水率計がおすすめです。薪は乾燥するにつれて収縮し、ひび割れが出てきますので、ひびの入った薪ほど乾燥していることとなります。

## ●バックパフィン

煙突のドラフトがストーブから燃焼ガスを引き出すより早い速度で、薪が揮発性ガスを発生させた場合にバックパフィンが生じます。ガスは点火に十分な濃度と温度になるまで、炉内に待機します。ストーブがバックパフィンを起こした場合は、火力調整レバーを開放し空気を送り込んで煙を早く煙道へ送り、大きな薪の使用を避けてください。炉内の中の炎は常に鮮やかにゆらめいている状態に保ちます。煙が多く速度の遅い火は効率が悪く、煙突内にクレオソートを堆積させます。

## ●ドラフト試験

ドラフトの不具合において、ドラフトが過剰な場合の兆候としては、火力調整レバーで制御不可能な燃焼や、ストーブの一部が赤熱することが挙げられます。また、弱いドラフトの兆候としては、ストーブや室内煙突接合部からの煙の漏れ、弱火、ガラスの汚れなどが挙げられます。

煙突ドラフトの簡単な試験方法は、火力調整レバーをしぼり、気流が安定するまで数分待ってから、火力調整レバーを開け閉めして、火の強弱が調節できるかどうかを観察する方法です（火力調整レバーを操作してから、火の状態が変わるまで数分かかることもあります）。火が調節できない場合は、ドラフトが足りないのかもしれない。火力調整レバーをもうしばらく開放しておき、ドラフトが強くなるまで待ちます。

燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作状態を関係付けていくと、お客様の設置状況に合った燃焼方法が見つかるでしょう。

## ●煙突ダンパー

状況（煙突・薪・気候）によって、ドラフトが強すぎる場合には煙突ダンパーを設置してドラフトを適正に制御することが可能です。

ドラフトの弱い煙突や気密の高い住宅、ストーブと同一の部屋に換気扇が設置してある場合など、室内の気圧がマイナスになる状況では煙突ダンパーの設置は必要ありません。場合によっては排気が室内に流出し危険をとまなうことがあります。販売店にお問い合わせください。

## ●負圧

最適なドラフトはストーブへの給気量にも関係します。煙突は自然に得られる空気だけを引き込むことができます。

住宅の気密性が高く、ストーブへの給気が妨げられる場合や、室内空気を屋外に排出する他の設備（特にレンジ・フード、衣類乾燥機・機械換気設備のような動力駆動設備）がストーブと空気を取り合う場合、ドラフトの障害になります。ストーブ以外のそうした設備の運転中に、ストーブが十分な空気を取り込めるのであれば問題はありません。近くの窓やドアを開けないと煙突が十分な空気を取り込めないのであれば、外気取り入れ口を増設したり、屋外からダクトをストーブに継ぎ、燃焼空気を直接引き入れる必要があります。

## ●ドラフト管理

ストーブで薪を燃やすということは「機械的な機能」というより「使用者の技術」です。ストーブと煙突が適切に設置されていれば、後は技術（操作のタイミング）を向上させればストーブのシステム全体の機能はより高くなります。

システムを構成する要素によってそれぞれ違う、ストーブの特性にあった適切な技術を得るために、燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作を関連付けていくと、より満足のいく効果を得ることができるでしょう。



# 点検スケジュール

## 8

### 点検・お手入れの区分

#### 注意

- 点検・お手入れを行うときは、ストーブを消火し、ストーブと煙突が十分冷えてから行ってください。
- 本書に記載されているメンテナンススケジュールは、本書に準じたご使用のもとでのスケジュールとなります。ご使用の環境や状態にあわせて行ってください。

#### ■ご使用のたびに

周囲の状態	ストーブ、煙突、および給気口の周囲は常に整理、掃除し、燃えやすいものを置かないようにしてください。
汚れ	ストーブはいつも清潔に掃除してください。汚れたままのご使用は錆の発生などでストーブの劣化を早めます。
ほこり	ストーブや煙突に付いたほこりや汚れは掃除機で吸い取り、固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。
臭気・煙漏れ	燃焼中に臭いがしたり、煙突から煙が漏れていないか確認してください。異常があれば販売店に連絡してください。
灰	燃焼室内や灰受け皿が灰でいっぱいになる前に、取り出してください。

#### ■気になったときに

ドアガラス	ガラスにススなどが付いた場合、お早めに専用のクリーナーで除去していただくことをおすすめします。特にタール状のものが付着してしまった場合、放っておくと除去に手間がかかります。ガラスに割れが確認されたときは、ただちに使用を中止し、お買い求めの販売店に連絡してください。
-------	--

#### ■シーズン中2～3回程度

排気経路	煙の排気経路内がススで閉塞する前に燃焼室内と煙突を点検・掃除してください。
触媒	排気経路の点検にあわせて、触媒に目詰まりや破損がないか確認してください。
給気口のほこり	給気口がほこりで閉塞されないように、ブラシや電気掃除機などで取り除いてください。
遮熱板のほこり	ストーブや煙突の遮熱板にほこりがたまった場合は、隙間に入るブラシなどでたまったほこりを取り除いてください。

#### ■シーズン終了後

ストーブの破損	ストーブに変形、損傷やガタつきが認められる場合は、お買い求めの販売店に連絡してください。
煙突	煙突は掃除の後に、外れ、劣化、および煙漏れのないことを確認してください。発見されたら、お買い求めの販売店に連絡してください。
ファイバーロープ	弾力性がなくなり、ほつれ等の劣化が見られるファイバーロープは新しいものと交換してください。
フロントドアの調整	ロックが緩く（またはきつく）なった場合は、フロントドアの調整をしてください。
灰受けドアの調整	ロックが緩く（またはきつく）なった場合は、ドアの調整をしてください。
バイパスダンパーの調整	ロックが緩く（またはきつく）なった場合は、バイパスダンパーの調整をしてください。
灰・ススの除去	ストーブ内の灰やススは、残しておくとも湿気が溜まり錆の原因になりますので、全て取り除いてください。
塗装・ホウロウ	ストーブの塗装がはがれたり、ホウロウが欠けている場合は、錆の発生を防ぐため専用の補修スプレーや補修液を使って、表面を保護してください。

#### ■地震、洪水、落雷などの災害が発生したときの点検について

地震、水害、落雷などの天災地変にあった場合はそのまま使用せず、必ずお買い求めになった販売店、または専門業者に点検をご依頼ください。隠れた不具合に気づかず使用し続けると、火災の原因になります。

## 定期点検

### ！ 定期点検の実施

お客様ご自身で行われる日々のメンテナンスのほか、定期的（5年に1回程度）に専門業者の点検・整備を受けてください（有料）。点検を受けずに長期間使用し続けると、経年劣化等により、故障や事故の原因になります。

### 別紙「あんしん点検のご案内」

ストーブと煙突をより良い状態で、快適かつ安全にお使いいただくために、ファイヤーサイドでは購入後、5年を経過したお客様に「あんしん点検」をご依頼いただきますようお願いしています。お買い求めの販売店、または当社にお問い合わせください。

### ■定期点検の案内

項目	内容
給排気経路の点検・掃除	給気ダクト、燃焼室内、および煙突の接続部や支持部、閉塞、劣化の点検と掃除。
機能部品の点検・交換	ENCORE パーツリスト図番【Y22、Y25、Y57～65、Y79】  別紙「パーツリスト」 DEFIANT パーツリスト図番【T2、T3、T7～10、T19、T25、T26、T28、T38、T48】  別紙「パーツリスト」
消耗部品の点検・交換	各接続部のファイバーロープ。触媒。
装置のはたらき	可動部の調整、および操作部品の点検・交換。
防火設備	炉台、炉壁、周囲可燃物の点検。

※次の症状が認められた場合は、すぐにお買い求めの販売店まで点検をご依頼ください。

- 煙突火災を起こした
- 煙突掃除で灰やススの他に、金属片や断熱材が混入
- ドアやダンパーが閉まらない
- ストーブや煙突の内部に歪みや破損が認められた
- 火力調節ができない
- ストーブや煙突が赤熱した
- 煙突が外れている、または強い異臭がする
- 煙突やストーブがガタつく

■本製品のパーツの保有期間は、製造打切り後 10 年です。

# メンテナンス

9

## 灰の掃除

メン  
テナ  
ンス

### ❌ 灰を可燃性の容器に入れない

ストーブから取り出した灰を紙袋やビニール袋など可燃性のものに絶対に入れないでください。火災の原因になります。

### ⚠️ 灰をためすぎない

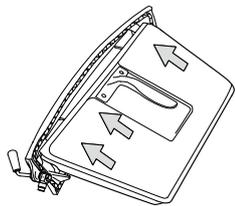
燃焼室や灰受け皿を灰でいっぱいにしてしないでください。空気吹き出し口がふさがれて燃焼が不完全になる他、薪やおきが外にこぼれたりドアが閉らなくなり、焚きすぎによる破損の原因になります。

**注意** 危険ですから燃焼中は灰の処理を行わないでください。灰受けドアも開けないでください。ストーブが完全に冷えた状態で行ってください。

定期的な灰の除去は、ストーブの耐久性にとっても重要な作業です。灰受け皿の縁まで溜まる前に以下の手順に従って処理してください。また、数日ごとにグレートの灰をスコップや灰かき棒でかき落とし、ストーブ内部の灰を取り除きます。

**1** 灰受けドアハンドルを右に回し、灰受けドアを静かに開きます。

**2** 付属の灰受けカバーを図のようにスライドさせ、灰受け皿にセットします。



**3** 灰受けカバーがしっかりとセットされていることを確認し、灰をこぼさないように灰受け皿ごと上に持ち上げます。

**注意** この際、灰受け皿は前方に傾けないでください。灰受け皿が灰受けカバーから外れる場合があります。

### ● 灰の処分について

取り出した灰は火災のおそれがないように、密閉できる金属製の容器に移します。その際、周りの可燃物から遠ざけて、厚み 5cm 以上の金属以外の不燃材の上に置き、72 時間以上経過させ、灰の中に火の気がないことを確かめてから処分してください。

## 薪ストーブ本体のお手入れ

### ❌ 分解・改造使用の禁止

本書に記載されているメンテナンス以外の分解、および改造はしないでください。火災や破損の原因になります。

**注意** お手入れを行うときは、ストーブを消火し、ストーブと煙突が十分冷えてから行ってください。また、安全のため、ゴーグルやマスク、グローブ等の安全衛生保護具を着用してください。

### 日常のお手入れ

本体全体のほこりや汚れを乾いた布、もしくは水に浸した後、きつく絞った布を使って、表面の汚れを落としてください。

### ● クラシックブラックのお手入れ方法

#### 必要工具等

- ・ワイヤーブラシ
- ・ウェス(布)
- ・耐熱塗料、またはストーブポリッシュ

#### 本体の塗装が剥がれる / 錆が発生した場合

**1** ワイヤーブラシで錆や古い塗装を落とし、次に乾いた布で、本体全体のほこりや汚れを落とします。湿らせた布を使う場合には、ストーブ表面に水分が残らないように注意してください。

**2** 専用の「耐熱塗料」(スプレー)で劣化部分、または本体全体を塗装してください。新しいスプレーで塗装する場合、周囲の色と違いが出る場合がありますので、目立たない部分で試し塗りすることをおすすめします。スプレー作業中は十分な換気を行ってください。

#### 塗装の劣化が見られる場合

塗装が剥がれた場合のお手入れ、もしくは劣化した塗装の上から専用補修磨き剤(ストーブポリッシュ)をご利用ください。

**ポイント** 部分塗装の場合、周囲の色と違いが出る場合がありますので、目立たない部分で試し塗りすることをおすすめします。また、ドア部分にスプレーする場合はドアを取り外すなど、ガラス表面に塗料が付着しないようにご注意ください。その際、周囲に塗料が飛び散らないようにダンボール等を敷いていきます。



●ホウロウ仕上げのお手入れ方法

必要工具等

- ・ウェス(布) ・ガラスクリーナー ・ホウロウ補修パテ
- ・ホウロウ補修液 ・サンドペーパー

柔らかな乾いた布で、本体全体のほこりや汚れを落とします。落ちにくい汚れは、専用の「ガラスクリーナー」を使用します。

**注意** 研磨剤を使用した場合、表面を傷つけるおそれがあります。

ホウロウが剥がれてしまった場合

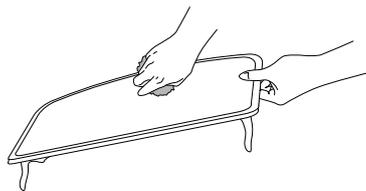
錆や汚れを取り除いた後、別売りの専用「ホウロウ補修パテ」を使用します。乾いたら細かいサンドペーパーで表面をならし、付属の「ホウロウ補修液」を塗って仕上げます。

●トップドアのお手入れ

必要工具等

- ・細毛ワイヤーブラシ、またはスチールウール

錆が発生したトップドア(クッキンググリドル)は、細毛ワイヤーブラシかスチールウールで磨いてください。

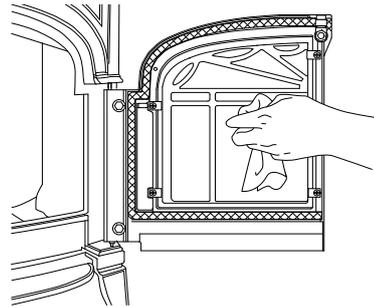


**ヒント** ダッチオープンに代表される鉄鋳物調理器具にシーズニングをする要領で、ストーブに火を入れる前にトップドア(クッキンググリドル)の表面に植物性オイルを薄く塗り、その後通常の使用温度で使用すれば、炭化被膜に覆われ錆びにくくなります。  
※油が炭化するまで煙が出ますので、室内の換気を十分行ってください。

必要工具等

- ・ウェス(布) ・ティッシュペーパー
- ・ガラスクリーナー

別売りの専用「ガラスクリーナー」を布に付けて汚れをよくふき取り、自然に乾かしてください。



# メンテナンス

## 9

### ドアガラスの交換

メン  
テナ  
ンス

ドアガラスが破損した場合は、速やかに交換してください。

**注意** 必ずパーモントキャストिंगス純正耐熱セラミックガラスをお使いください。その他の代用品は決して使わないでください。アンコールのドアガラスは、左右の入れ替えができません。

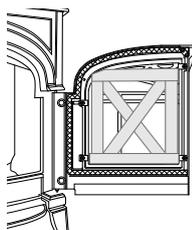
#### 必要部材

・交換用ガラス  
アンコール（左側）……………品番：30005300  
アンコール（右側）……………品番：30005299  
デファイアント（左右共通）……………品番：30005247  
ドアガラス用ファイバーロープ ……品番：81219

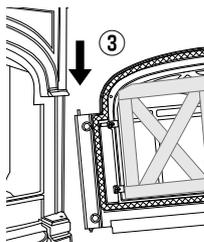
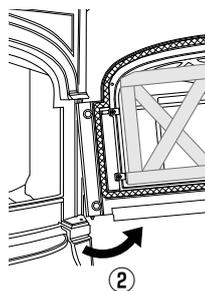
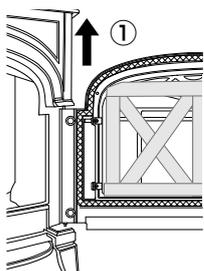
#### 必要工具等

・プラスドライバー ・ガムテープ等  
・毛布、ダンボール等

**1** 割れたガラスが飛散しないように、裏からガムテープなどで割れ目をつないでください。

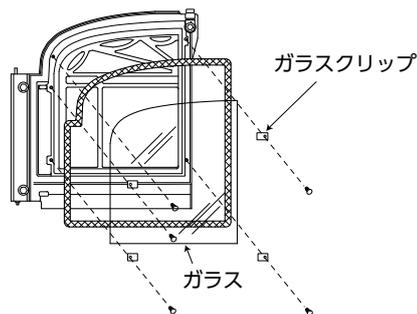


**2** ドア下部のヒンジピンが穴から外されるまでドアを持ち上げ①、次にドアの底を若干外側に傾け②、ドアを下に引き、上のヒンジピンを外します③。



**注意** 外したドアは、表側が下になるようにし、表面にキズがつかないように毛布やダンボール等の上に置きます。ホウロウ色のドアには特に注意が必要です。ドアの納まる上下部分にも十分注意してください。

**3** ガラスに注意をしながら、ガラスをおさえているクリップを外します。（ビス4本）



**ポイント** ガラスとドアの間にはファイバーロープが付いています。ファイバーロープはガラスとドアの間がしっかり密閉できるように、柔らかくて弾力性がなければなりません。ファイバーロープが硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合には交換が必要です。

☞ 39 ページ

**4** 破損したガラスを丁寧に外します。

**5** 新しいガラスがファイバーロープに均一に当たるようにします。クリップでガラスをおさえ、元のように取り付けます。

**注意** クリップを取り付ける際、ビスを強く締めすぎるとガラスが破損するおそれがあります。

**6** ②と逆の要領で、フロントドアを本体に取り付けます。

## ファイバーロープの交換

薪ストーブの気密性を保つため、フロントドアやトップドア（クッキンググリドル）、灰受けドア、ダンパー周りなどの周囲にはファイバーロープが使われています。次のいずれかに該当する場合は、手順に従い新しいファイバーロープと交換してください。そのままお使いになると、過剰に燃烧空気が入り火力コントロールができなくなります。過燃焼となり炉の中のパーツが歪んだりストーブの劣化を招くばかりでなく大変危険です。

### ●交換が必要な症状

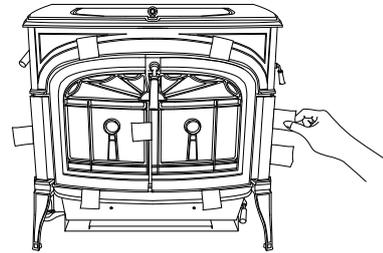
#### ① 劣化や破損

弾力がなく、触るとポロポロとほつれる、または途中で切れている場合。

#### ② 密閉されていない

ファイバーロープは使用に伴い硬くなり、徐々に収縮していきます。気密テストを行い、各ドアやダンパー周りに隙間が認められる場合は交換が必要です。

### ●気密テストの方法



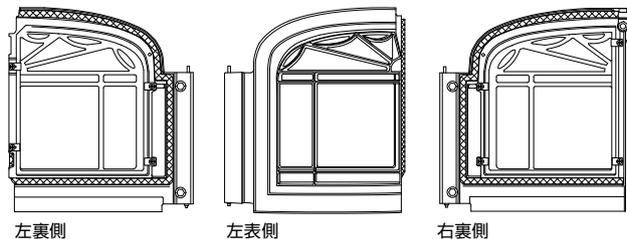
紙を長方形にカットし、ドアと本体の間に挟みこんでドアを閉めます。

ゆっくりと紙を引き出して、抵抗を感じずスルスルと抜けてしまうようであれば密閉がされていません。同じテストをドア周囲の数箇所で行ってください。

#### 備考

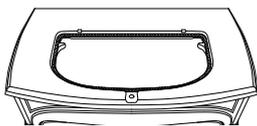
弾力があるが、途中で剥がれてしまったファイバーロープは、耐火セメントや補修専用の接着剤（サーミックシールなど）で再度貼り付けてください。

#### ドア部分 (交換方法 40 ページ)



- ・アンコール : 左φ 7.94mm (R721) 長さ 115cm  
右φ 7.94mm (R721) 長さ 90cm
- ・デファイアント: 左φ 11.1mm (7000910) 長さ 122cm  
右φ 11.1mm (7000910) 長さ 92cm

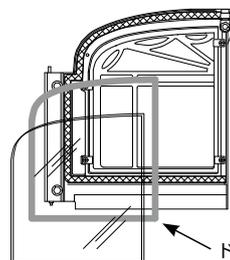
#### トップドア（クッキンググリドル）部分



- ・アンコール : φ 7.94mm (R516GG) 長さ 117cm
- ・デファイアント: φ 7.94mm (R516GG) 長さ 132cm

●フロント・灰受けドア部分は「シリコンシーラント」で接着されていますが「耐火セメント」を使用することもできます。他の部分には「シリコンシーラント」は使用できません。

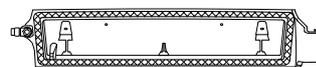
#### ガラス部分 (ドアガラスの交換方法 38 ページ)



- ・アンコール:  
左φ 4.76mm (81219) 長さ 92cm  
右φ 4.76mm (81219) 長さ 97cm
- ・デファイアント:  
左右φ 4.76mm (81219)  
長さ 107cm

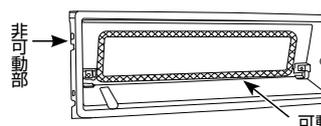
ドアガラス用ファイバーロープ

#### 灰受けドア部分



- ・アンコール:  
φ 7.94mm (R721) 長さ 115cm
- ・デファイアント:  
φ 9.5mm (R722) 長さ 137cm

#### ダンパー周り (交換方法 41 ページ)



- ・アンコール:  
φ 7.94mm (R721) 長さ 110cm
- ・デファイアント:  
φ 7.94mm (R721) 長さ 108cm

●上記以外のファイバーロープは非可動部分どうしに使用されています。消耗度合いは異なりますので、パーツ取外し時以外は基本的に交換は不要です。

# メンテナンス

## 9

### ファイバーロープの交換

メンテナンス

#### ●ドア部分の交換方法

##### 必要部材

- ・シリコンシーラント (R76A)、または耐火セメントガasket用 (R77E) ・ファイバーロープ

##### 必要工具

- ・ゴーグル ・マスク ・ハンマー
- ・タガネ、またはマイナスドライバー
- ・マスキングテープ ・ワイヤーブラシ ・布
- ・カッター、またはハサミ ・毛布、ダンボール等

**1** ドアを外し、作業のしやすい所に置きます。

**注意** 外したドアは表側が下になるようにし、表面にキズがつかないように毛布やダンボール等の上に置きます。ホウロウ色のドアには特に注意が必要です。

**2** 劣化したファイバーロープの端をつかんで、強く引っ張り外します。(図1)

**3** ワイヤーブラシやドライバーの先端を使って、残ったシリコンシーラントやファイバーロープの破片を溝から取り除きます。(図2)

**注意** ホウロウ色の場合、ホウロウ部分の破損に注意して作業してください。

**4** 適切なサイズ(太さ)で規定の長さより5cm程長めのファイバーロープを用意し、溝に約3mm厚でシリコンシーラントを注入します。(図3)

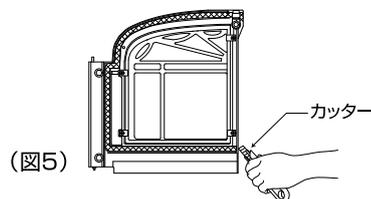
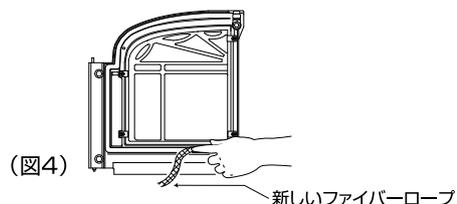
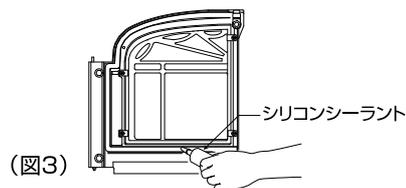
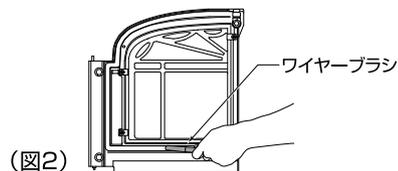
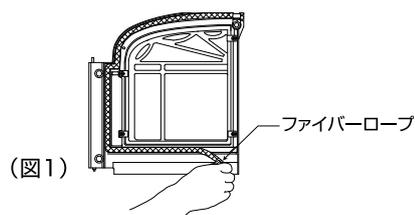
**5** ファイバーロープを溝の一方から押込んでいきます。(図4)

**注意** 弾力を持たせるため、ファイバーロープは強く伸ばさないようにしてください。

**6** 溝の終了部分のファイバーロープにマスキングテープを巻き、余分をカットして長さの調整を行います。(図5)

**7** ドアを閉めて、該当する接触部分をファイバーロープにしっかりと密着させます。

**8** ドアを再び開け、溝の周辺からはみ出したシリコンシーラントをマイナスドライバーの先で取り除き、ドアを閉め24時間以上常温で乾燥させます。



**ポイント** 使い始めやファイバーロープを交換した後、新しいファイバーロープがなじむまで、フロントドアや灰受けドアの各ハンドル、バイパスダンパーの調整を42～44ページに従って行います。しばらくしてハンドルの当たりがゆるんできたら、再度調整を行います。なじむまで数回調整が必要です。

動画で  
Check!



「ファイバーロープの交換」  
(トップドア)

## ●バイパスダンパー部分の交換方法

バイパスダンパー部のファイバーロープは、フロントドアを開け、バイパスダンパーが開いた状態にし、ダンパーフレーム周囲の裏側についているファイバーロープを手で触り、点検します。

**注意** バイパスダンパー部のファイバーロープを交換する際は、煙突を本体から外す必要があります。外し方はお買い求めの販売店へご相談ください。

### 必要部材

- ・耐火セメントガasket用 (R77E)
- ・ファイバーロープ

### 必要工具

- ・ゴーグル
- ・マスク
- ・ワイヤーブラシ
- ・マスキングテープ
- ・布
- ・ハサミ
- ・マイナスドライバー
- ・新聞紙等

**1** 両側面上下4本のプラススクリュビスを外し、背面中央部にある2本の六角ボルトをゆるめ、上に少しスライドさせてリアヒートシールドを外します。フルーカラーヒートシールドは、リアヒートシールドに取り付けたまま外します(図1)。

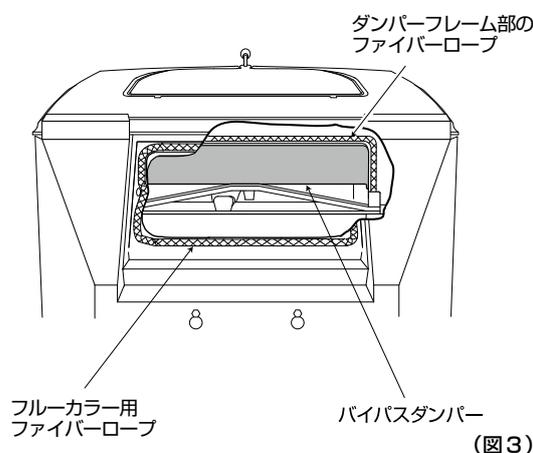
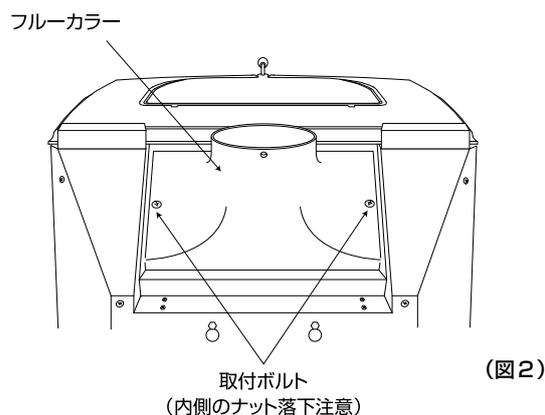
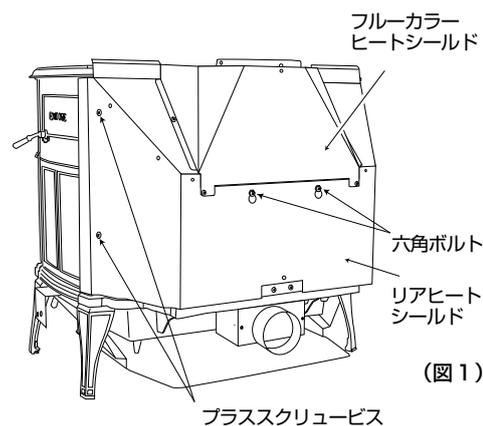
**2** 左右2箇所のボルト・ナットを外し、本体に付いている鋳物製のフルーカラー(煙突接続部)を取り外し(図2)、この開口部からバイパスダンパー周りのファイバーロープの交換を耐火セメントを用いて行います。この時フルーカラーの付く本体の開口周りのファイバーロープも交換します(図3)。

**注意** 内側のナットを落下させないように注意してください。作業が困難な場合は、販売店にご依頼ください。

**3** リアヒートシールドの内側にほこりがたまっている場合にはきれいに清掃してください。

**4** 逆の順で、フルーカラー、リアヒートシールドを取り付け、煙突を接続します。

**注意** ススなどで汚れる場合がありますので、手袋や新聞紙等を使用してください。



# メンテナンス

## 9

### フロントドアの調整

メン  
テナ  
ンス

#### 密閉度テスト

定期的に（シーズン前点検等の際には必ず）密閉度テストを行います。密閉度が不十分であればドアの調整が必要になります。

☞ 39 ページ「気密テストの方法」

#### 注意

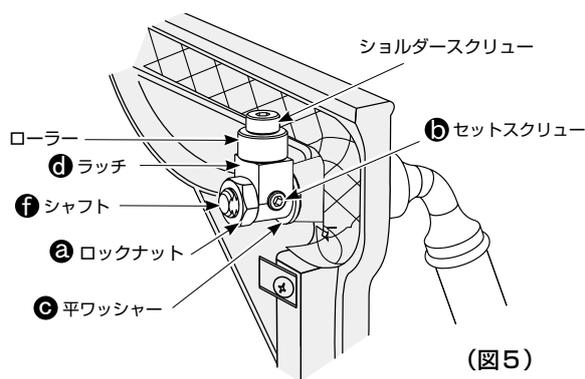
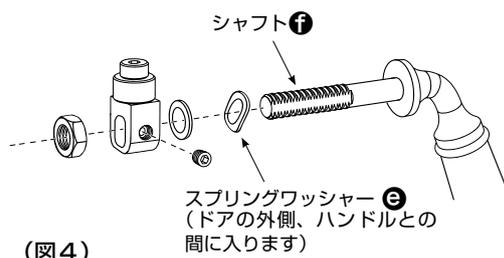
ファイバーロープに弾力性がなく、硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合は、ファイバーロープの交換が必要です。そのままお使いになると、過剰に燃焼空気が入り火力コントロールができなくなります。過燃焼となり炉の中のパーツが歪んだりストーブの劣化を招くばかりでなく大変危険です。必ず実行してください。

#### フロントドアの調整方法

##### 必要工具

- ・コンビネーションレンチ9/16（14mm）
- ・本体付属六角棒レンチ（小）

- 1 ドアロックの構造は（図4）のとおりです。セットスクリュー**b**を本体付属の六角棒レンチ（小）でゆるめます。



- 2 きつくしたい場合（図5）

ロックナット**a**を9/16インチ（14mm）のレンチで時計回りに締め付けます。途中、扉を閉めて状態を確認しながら調節してください。締めすぎると固くなりハンドルが回りにくくなりますのでご注意ください（スプリングワッシャーのバネが効いている状態にしてください）。平ワッシャー**c**を外してロックナット**a**側に移動させることによってさらにきつく調節ができます。

- ゆるくしたい場合（図5）

ロックナット**a**を9/16インチ（14mm）のレンチで反時計回りに回してください。途中、扉を閉めて状態を確認しながら調節してください。ゆるめ過ぎるとハンドルにガタツキが発生しますのでご注意ください（スプリングワッシャーのバネが効いている状態にしてください）。シャフト**f**がロックナット**a**から出ている位置までで、それ以上はゆるめないでください。平ワッシャー**c**がロックナット側に位置している場合、外してドア側に移動させることによってさらにゆるく調節できます。

- 3 調節が終わったらセットスクリューを締め付けた後、ロックナットを締め付けます。

- 4 ドアの密封度テスト（39 ページ）に応じて調節を行ってください。不十分であれば再度調整をしてください。

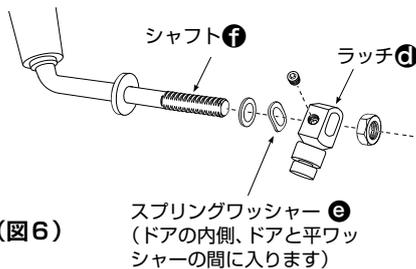
## 灰受けドアの調整

**注意** 灰受け皿を取り外した状態で作業を行ってください。

### 必要工具

- ・コンビネーションレンチ9/16 (14mm)
- ・本体付属六角棒レンチ (小)

- 1** 灰受けドアロックの構造は図6のとおりです。セットスクリュー**e**を本体付属の六角棒レンチ(小)でゆるめます。



- 2** きつくしたい場合 (図7)

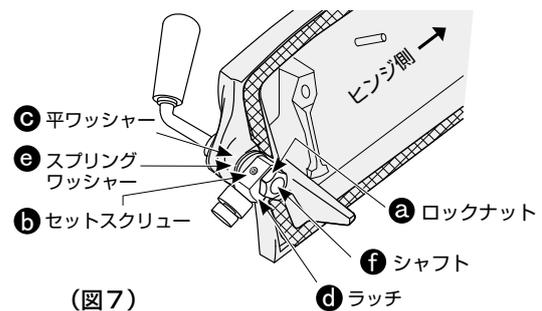
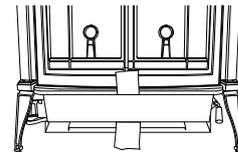
ロックナット**a**を9/16インチ(14mm)のレンチで時計回りに締め付けます。途中、扉を閉めて状態を確認しながら調節してください。締めすぎると固くなりハンドルが回りにくくなりますのでご注意ください(スプリングワッシャーのバネが効いている状態にしてください)。平ワッシャー**c**を外してロックナット**a**側に移動させることによってさらにきつく調節ができます。

### ゆるくしたい場合 (図7)

ロックナット**a**を9/16インチ(14mm)のレンチで反時計回りに回してください。途中、扉を閉めて状態を確認しながら調節してください。ゆるめ過ぎるとハンドルにガタツキが発生しますのでご注意ください(スプリングワッシャーのバネが効いている状態にしてください)。シャフト**f**がロックナット**a**から出ている位置までで、それ以上はゆるめないでください。平ワッシャー**c**がロックナット側に位置している場合、外してドア側に移動させることによってさらにゆるく調節できます。

- 3** 調節が終わったらセットスクリューを締め付けた後、ロックナットを締め付けます。

- 4** ドアの密封度テストに応じて調節を行ってください。不十分であれば再度調整をしてください。



# メンテナンス

## 9

### バイパスダンパーの調整

メン  
テナ  
ンス

#### 密閉度テスト

定期的に（シーズン前点検等の際には必ず）、密閉度テストを行います。

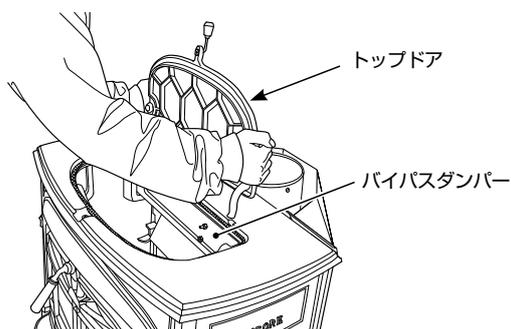
紙をバイパスダンパーに挟んだ状態でバイパスダンパーを閉めます。紙を引っ張り楽に取れるようであれば、バイパスダンパーの密閉度が不十分です。

バイパスダンパー周囲全体に渡って行います。密閉度が不十分であれば、ファイバーロープに加圧するために、以下の要領でダンパーロッドとバイパスダンパーの当たりを調整します。

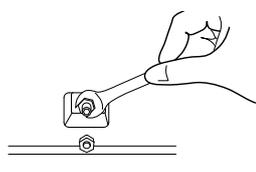
#### 必要工具

- ・コンビネーションレンチ7/16（11mm）
- ・本体付属六角棒レンチ（小）

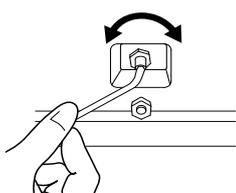
- 1 トップドア（クッキンググリドル）を垂直近くまで開け、そのまま上に持ち上げ取り外します。この開口部から作業を行います。



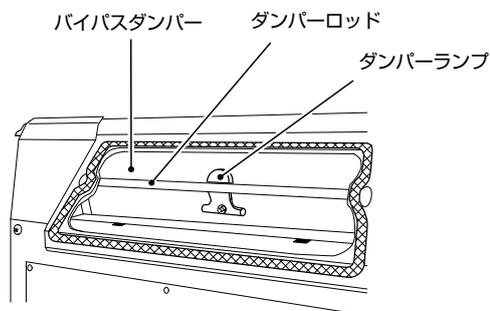
- 2 バイパスダンパー中央にあるロックナットをコンビネーションレンチでゆるめます。



- 3 圧縮ネジを六角棒レンチ（小）で回転させます。時計方向に回すときつくなります。



- 4 ロックナットを締め直し、バイパスダンパーの閉まり具合、ダンパーランプとダンパーロッドの当たり具合をテストします。



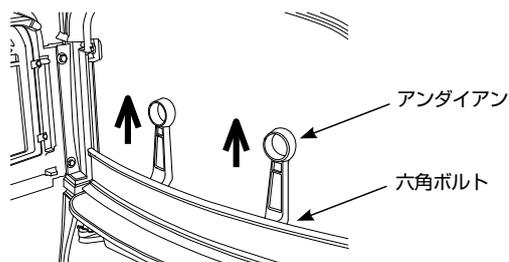
**注意** しばらく使用しているとファイバーロープが圧縮され、多少閉まり具合がゆるくなってきますので、その際にはしっかり閉まるよう再調整してください。

**ポイント** 圧縮ネジ、ロックナットが錆等により固着していることがあります。浸透性のある潤滑剤をあらかじめスプレーしてから注意して回してください。調整するときに耐熱グリスをネジ部に塗布しておくこと次のメンテナンスが簡便になります。

### アンダイアの点検

アンダイアは燃焼中の薪が手前にこぼれ落ちるのを防ぐ重要な部品です。熱により変形劣化している場合には新しい物に交換してください。

アンダイアは差し込まれているだけです。上に引き上げると外すことができます。きつい場合には、内側の六角ボルトをゆるめておいてください。



## ガス燃焼室の点検掃除

シーズン前点検の際や、煙突から出る煙の量が増えた、煙突がすぐつまる、バイパスダンパーを閉めると火が消えてしまう等の症状が出たときは、ガス燃焼室を点検します。

### 必要工具

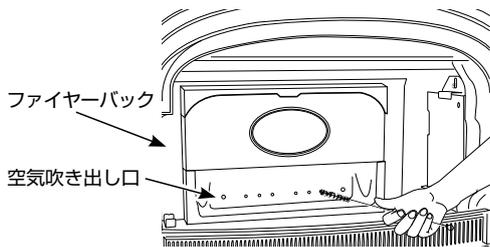
・ブラシ、または細い棒、綿棒など	・ハケ
・懐中電灯	・点検鏡
	・掃除機

ファイヤーバックの空気吹き出し口が灰等によってつまると燃焼が効率よく行われません。お使いになる前に空気吹き出し口を掃除してください。

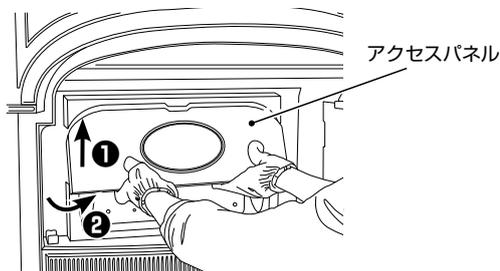
### 1 アンダイアンを上を持ち上げ外します。

🔗 44 ページ

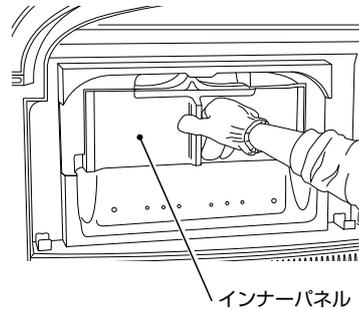
### 2 空気吹き出し口にたまった灰等の除去をして、穴を貫通させてください。



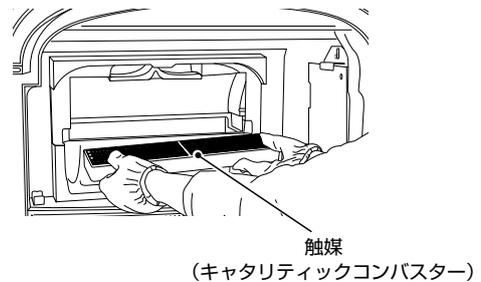
### 3 燃焼室内の正面にあるアクセスパネルを外します。下部を少し上を持ち上げながら手前に引き、戸を外す要領で取り出します。



### 4 インナーパネル中央部の出っ張りを持って手前に引き取り外します。



### 5 触媒 (キャタリティックコンバスター) を静かに取り出します。



### 6 取り出した触媒 (キャタリティックコンバスター) の外観をチェックし、欠落、灰の蓄積、ススや他の異物の付着があるか確認します。正常な触媒はハニカムの崩れがなく、明灰色です。灰やスス、他の異物の付着を確認するには光にかざしてみます。ハニカム内部にクレオソートや燃えかすが溜まっていると光の通りが悪くなります。

灰とススの付着がある場合は、軽く息を吹きかけるか毛先の柔らかいハケ等で払い落としてください。破損などの症状が認められた場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

**注意** ガス燃焼室の材質は衝撃に弱いので、ていねいに扱い、カケや破損にご注意ください。

**注意** 触媒 (キャタリティックコンバスター) の掃除にエアークンプレッサー等の圧縮空気式のものはいけません。表面のコーティングが剥がれ機能が低下します。

# メンテナンス

## 9

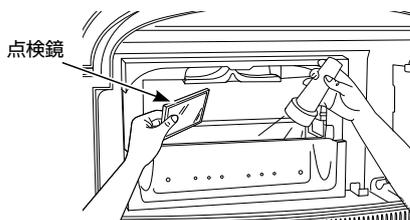
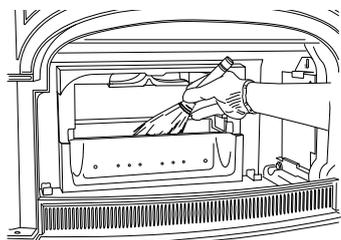
### ガス燃焼室の点検掃除

メン  
テナ  
ンス

**ポイント** 触媒の機能低下の症状は、煙突から出る煙の状態が目安になります。効率よく機能しているときには、煙が無色で透明に近い状態ですが、低下してくると灰色になります。(  28 ページ)  
判断しかねるときには、お買い求めの販売店にご相談ください。

**7** 触媒（キャタリティックコンバスター）が外されている状態でガス燃焼室の点検、清掃を行います。ハケと掃除機で内部の灰やススを取り除きます。きれいになったら、懐中電灯と点検鏡を使って内部に亀裂や劣化、欠け、穴あきがないかチェックします。ガス燃焼室の背面（バックインシュレーションボード）とパッキンは柔らかい素材です。掃除機等で破損させないようにご注意ください。

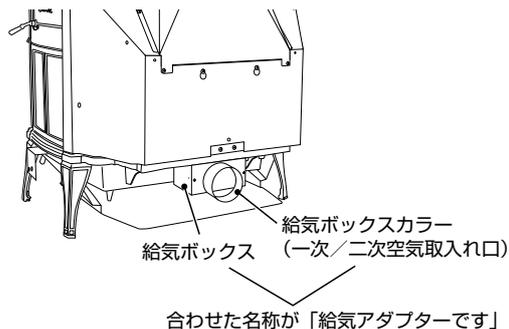
劣化破損などの症状が認められた場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。そのままにしてお使いになると燃焼が悪化してクリーンな排気が得られません。



**8** 気になる劣化破損がない場合は、触媒（キャタリティックコンバスター）、インナーパネル、アクセスパネルをそれぞれもとの位置に取り付け、アンダリアンも取り付けます。

### 給気アダプターの掃除

- 1** 給気ボックスカラーを止めている蝶ネジ2本を外し取り外します。
- 2** 中に溜まっているほこりを掃除機で掃除してください。奥の一次空気バルブ付近も念入りに行ってください。終了後はもとに戻します。



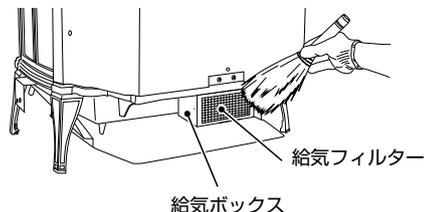
※配管接続されている場合は必要ありません。

**注意** ストープが壁に接近して作業が困難な場合にはストーブ販売店へご相談ください。

オプションの「給気フィルター」を付けることにより掃除が容易になります。

### 給気フィルター（オプション）の掃除

掃除機やブラシ等でほこりを除去してください。給気フィルターは脱着式ですので、必要に応じてフィルターを取り外してほこりを取り除いてください。終了後はもとに戻してください。



## 煙突の点検と掃除

### ●煙突点検の必要性

ストーブの燃焼により、煙に含まれるススやクレオソートなどの物質が煙突内部に蓄積すると、煙突がつまって室内に煙が漏れるおそれがあるほか、燃えやすいクレオソートにより、煙突火災が発生するおそれがあります。煙突内部の堆積物量は使用頻度や使用状況によって異なりますが、シーズンを終えてから、次のシーズンまでの間に必ず点検を行い、煙突内部に3mm以上のススの堆積が確認された場合、煙突内部の掃除を行ってください。  32 ページ「クレオソート」

### ●点検の重点部位

ススやクレオソートは燃焼炉内から煙突頂部の排気経路全てにおいて堆積する可能性があります。特に、シングル煙突（一重室内煙突）の内側、または煙突トップとその付近の煙突内部の冷却されやすい場所、横引き部分や煙突ダンパーを備えている場合はその部分など、排気の抵抗のある部分は注意して点検してください。

### ●安全の確保

煙突掃除は設置の状況により、はしごを利用して屋根に登らなければならない場合もありますが、安全具の着用など、身の安全に十分配慮して行ってください。また、煙突の点検を行う前は、お買い求めの販売店のアドバイスを得ることが重要です。ご自身で行えない場合は、必ずお買い求めの販売店へご相談ください。

### ●掃除道具

煙突内部の掃除には、設置されている煙突の直径と長さに応じて、ブラシとロッドが必要です。お買い求めの販売店へご確認いただき、煙突掃除道具をご購入ください。

### ●点検口

一般的には煙突頂部の雨仕舞部材を外して、上から煙突内部を覗き込み点検・掃除を行う方法と、図のように点検口を備えた煙突（90° T型、点検口付直筒、またはエルボー）や接続部を外すことができる煙突（自在煙突、スライドアジャスター）を利用して煙突内部を点検・掃

除する方法があります。お客様により設置状況が異なりますのでお買い求めの販売店へご確認ください。

### 注意

点検・掃除のために外した点検口や煙突は、作業終了後にもとに戻し、フタや煙突が確実に固定されているか必ず確認してください。

### ●掃除方法

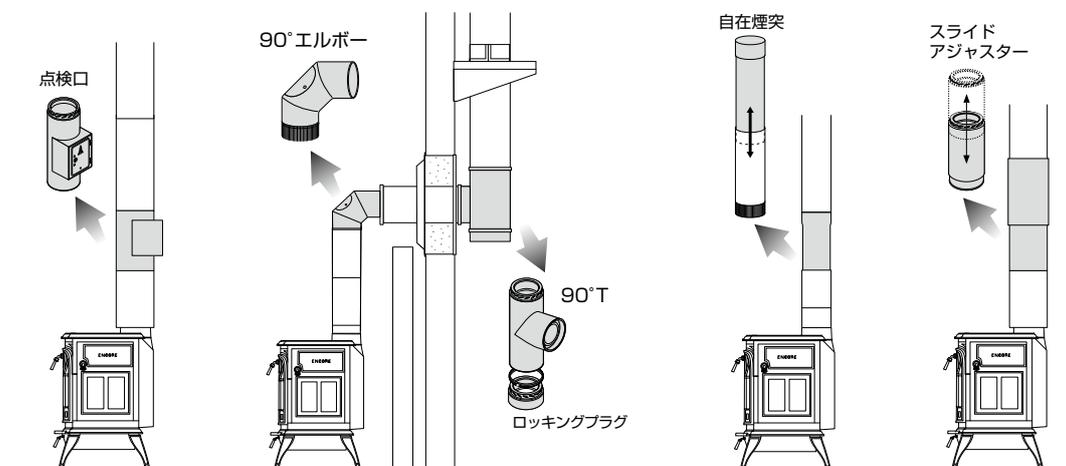
点検口、もしくは煙突を外したところに、煙突掃除用袋などのスス受を設けてブラシを煙突内部に挿入していきます。エルボーの部分はブラシが挿入しにくい場合がありますが、専用のスプリングを使用すると楽に挿入できます。決して勢いを付けるなど無理に挿入しないようにしてください。振動で煙突が外れてけがをするおそれがあります。煙突の全長とロッドの長さを確認しながら、ブラシを最後まで挿入してください。堆積物の質と量に応じて一往復、もしくは2～3回繰り返してください。掃除後に煙突内部を確認して、堆積物が除去されていれば終了です。

### ●煙突点検・掃除に付随する点検内容

- 本体と煙突の接続部、および煙突どうしの接続部に緩みやガタつきがないか。
- 屋外給気筒（口）開口部付近の整理整頓、およびホコリ除去。
- カーテン、家具など可燃物の近接確認。
- 除去された堆積物にクレオソートが含まれる場合、薪の含水率を確認。

### ●次の場合は一時ご使用をおやめになりお買い求めの販売店へご相談ください

- 除去された堆積物に、煙突が腐食したと思われる金属片が確認された場合。
- 煙突内部に変形、もしくは劣化が認められた場合。
- 地震、水害、落雷等の天災地変が起こった場合。
- 煙突の接続部、もしくは隠蔽部から煙が漏れる場合。



# トラブルシューティング (問題解決のヒント)

10

トラブルシューティング

薪ストーブのトラブルには一つの現象において複合的に要因が存在する場合があります。要因のひとつひとつを追及し対処することが問題解決のカギとなります。

この章をお読みになり、表にない場合、あるいはご自身で問題が解決されない場合や故障と思われるときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

現象 原因	燃えない (スタート時)	燃えない (温度が上がらない)	燃えすぎる (温度が上がりすぎ)	煙が逆流する	バックファイニング	ガラスがくもる	炉内に錆が出る	灰色や茶色の煙が出る	タールが発生する	ドアが開まらない	灰受けドアが開まらない	火力調整レバーが開閉しない	バイパスダンパーが開閉しない	処置
薪が湿っている	●	●		●					●	●				含水率が20%以下まで乾燥した薪を使用してください。市販の含水率計を使うことで簡単に薪の乾燥状態を知ることができます。乾燥期間を1年以上かけても乾燥しない場合は、保管方法や保管場所を確認し改善してください。水分含有量が多すぎると、熱はその水分を蒸発させるために奪われ、連鎖的な燃焼にブレーキをかけます。 ☞ 20 ページ「薪について」
薪が乾燥しすぎている			●		●									乾燥に適した場所で長期間保管した薪は含水率が15%以下まで乾燥してしまう場合があります。含水率が20%前後の薪と併用するか、薪と薪の間の隙間を少なくして燃やしてください。
スギ、ヒノキ、マツなどの軟木を使用している			●						●	●				針葉樹の多くは広葉樹と比較すると密度が低く軽いいため、短時間当たりの熱量は大きくなります。針葉樹を使用する場合は急激な温度上昇を回避するためにできるだけ太い薪を使用してください。また、針葉樹の多くはヤニ成分を含んでおり、十分に乾燥がされていないと、タールやクレオソートを発生させる原因となります。
薪の投入量が多い			●		●									薪の投入量はアンダーアイアンより上にならないようにしてください。
薪が細かすぎる			●											長時間の燃焼に必要な直径約10cm以上の薪をご用意ください。
塩や化学物質が含まれた材木を使用している								●	●					合板、塗装、または防腐処理がされた木材、海水に浸された薪は有害物質を発生させ、ストーブや煙突を破損させますのでご使用をおやめください。
焚きつけが少ない	●	●												スタートや薪の追加時には、太い薪に火が移るために必要となる十分な量の焚きつけを使用してください。
おき火が足りない	●	●												燃焼が連鎖できる十分なおき床の量が必要です。追加された薪はこのおき火からの熱を受け、燃焼が連鎖していきます。
薪と薪の間に通気がない	●	●												薪と薪の間には空気が通うように隙間を設けて積み上げてください。特におき火のないスタート時は、焚き付けと薪の間に十分な空間を設けてください。

現象 原因	燃えない (スタート時)	燃えない (温度が上がらない)	燃えすぎる (温度が上がりすぎる)	煙が逆流する	バックパフィンク	ガラスがくもる	炉内に錆が出る	灰色や茶色の煙が出る	タールが発生する	ドアが開まらない	灰受けドアが開まらない	火力調整レバーが開閉しない	バイパスダンパーが開閉しない	処置
バイパスダンパーを閉めるのが遅すぎる			●											バイパスダンパーを閉めるタイミングは、薪の表面に十分炎がまわり、かつ、トップドアの中央に置かれた温度計が230～280℃まで上昇してから行ってください。バイパスダンパーを閉める適切な温度域を越えて使用し続けると、過燃焼によりストーブや煙突の破損の原因となります。早すぎると炉内がかすぶり、煙が室内に漏れる原因となります。
バイパスダンパーを閉めるのが早すぎる	●	●		●	●	●								
バイパスダンパーを開かずドアを開けた				●										ストーブの各ドアを開ける際は必ずバイパスダンパーが開いていることを確認してください。
火力調整レバーを開けすぎている			●											炉内の炎は必ず天板にあたる、もしくは向かうように火力調整レバーを調整してください。
火力調整レバーを閉めすぎている	●	●		●	●	●		●						スタート時は燃焼が安定するまで火力調整レバーを全開にしてください。運転中は炉内がかすぶる、またはバックパフィンクを起こすまで火力調整レバーを閉めないでください。炉内は常に炎が揺らいでいる状態で運転してください。
ファイバーロープが消耗している			●			●				●	●			弾力を失ったものやほつれがあるものは新しいファイバーロープに交換してください。 ☞ 39～41 ページ「ファイバーロープの交換」
ドアやダンパーロックの緩み (ドアに隙間がある)			●			●				●	●			ロックの調整をしてください。 ☞ 42 ページ「フロントドアの調整」 43 ページ「灰受けドアの調整」 44 ページ「バイパスダンパーの調整」 ファイバーロープを交換してドアの調整をしても緩みが改善されない場合は金属部品が消耗している可能性があります。お買い求めのお販売店へご連絡ください。
ファイバーロープの交換										●	●	●		ファイバーロープを新しく交換した場合はドアやダンパーのロックを調整してください。 ☞ 42 ページ「フロントドアの調整」 43 ページ「灰受けドアの調整」 44 ページ「バイパスダンパーの調整」
灰をためすぎている											●			灰受け皿からこぼれる前に灰を取り出してください。 ☞ 36 ページ「灰の掃除」
ケーブル、またはサーモスタートの破損	●	●										●		火力調整レバーと空気弁が連動しない場合は内部で消耗、もしくは破損している可能性があります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
ガス燃焼室（触媒）がススなどで閉塞している		●		●	●	●								触媒の表面にススが付着している、またはガス燃焼室内の排気経路が閉塞している可能性があります。 ☞ 45、46 ページ「ガス燃焼室の点検掃除」
給気の不足、ホコリが詰まっている	●	●			●									給気ボックス内部、またはオプションの給気フィルターを掃除してください。 ☞ P46 ページ「給気アダプターの掃除」「給気フィルターの掃除」

ストーブ

# トラブルシューティング (問題解決のヒント)

現象 原因		燃えない (スタート時)	燃えない (温度が上がらない)	燃えすぎる (温度上がりすぎる)	煙が逆流する	バックパフィン	ガラスがくもる	炉内に錆が出る	灰色や茶色の煙が出る	タールが発生する	ドアが閉まらない	灰受けドアが開閉しない	火力調整レバーが開閉しない	パイプスタンプが開閉しない	処置
ストープ	燃焼中にドアが開いている			●											燃焼中は各ドアを開けて使用しないでください。
	触媒の破損								●						触媒が破損している場合は、煙に含まれる未燃焼ガスを再燃焼することができません。新しいものと交換してください。
煙突	煙突がススなどで閉塞している	●	●		●	●	●							●	排気の妨げにならないよう煙突内部のススが3mm以上堆積している場合は煙突掃除で除去してください。突然燃焼異常が生じた場合は、煙突頂部に鳥の巣や飛来したゴミにより閉塞した可能性があります。 ☞ 47ページ「煙突の点検と掃除」 また、煙突から落ちてきたススが、ダンパーの裏に堆積し、うまく開閉しない場合があります。ストープと煙突の接続部を取り外し、口元から堆積物を取り除いてください。
	給気筒もしくは給気口がゴミなどで閉塞している	●	●		●	●	●						●		屋外の給気フードに飛来したゴミにより閉塞している、もしくは室内のホコリが給気口に溜まっている場合は除去してください。
	ドラフトが強い			●											常にドラフトが強い場合は煙突ダンパーの装着により解決される場合があります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	曲がりが多い、あるいは横引きが長い	●	●		●	●	●								曲がりや横引きにより排気抵抗が大きい可能性があります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	煙突が短い (5 m未満)	●	●		●	●	●								煙突は最低5メートル (海拔ゼロ地点) が必要です。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	煙突ダンパーが閉じている	●	●		●	●	●								煙突ダンパーを開けてください。 (煙突ダンパー付きのみ)
建物	部屋の気密が高い	●	●		●	●	●								エネルギー効率を配慮した高气密住宅では、屋内空気の循環が制限されているので、室内から十分な燃焼空気を得にくい場合があります。燃焼中にストープに近い窓を少し開けておくか、外気の導入により屋外から直接燃焼空気を取り込むための経路が必要となります。お買い求めの販売店へご連絡ください。
	換気扇を使用している	●	●		●	●	●								ストープを据え付けている部屋 (空間) の換気扇を止めてください。
	屋外障害物による風圧帯 ※ある方向から吹く風だけ逆流する場合				●	●									煙突頂部が障害物の風下に位置している場合、乱気流による風圧帯によって一時的に煙が逆流する場合があります。この場合、どの方向からの風によるものかを判断することは、障害物の原因特定、および問題解決の手がかりとなります。お買い求めの販売店へご連絡ください。

現象 原因		燃えない (スタート時)	燃えない (温度が上がらない)	燃えすぎる (温度上がりすぎる)	煙が逆流する	バックパフィンク	ガラスがくもる	炉内に錆が出る	灰色や茶色の煙が出る	タールが発生する	ドアが閉まらない	灰受けドアが閉まらない	火力調整レバーが開閉しない	パイバスタンプバーが開閉しない	処置
天候	冷え込みが激しい日	●			●										冷え込みが激しい日は、屋外の煙突が冷却され、スタート時のドラフトが容易に得られない場合があります。このような場合は、「ドラフトを起こす」(24 ページ)の方法で、強制的にドラフトを発生させることで逆流を防ぐことができます。
	小春日和など穏やかな天候時	●			●										室内と屋外の温度差が小さい場合、適切なドラフトが生じるまで時間がかかる場合があります。
	強風時	●	●	●											煙突の頂部が横風にさらされると、頂部の風下側で負圧が発生し、煙突内の負圧を補助する働きが生まれ、一時的にドラフトが加速される場合があります。一方、強風の都度、室内に煙が漏れる場合は、お買い求めの販売店へご連絡ください。



# 仕様

## 11

### 仕様一覧

仕様

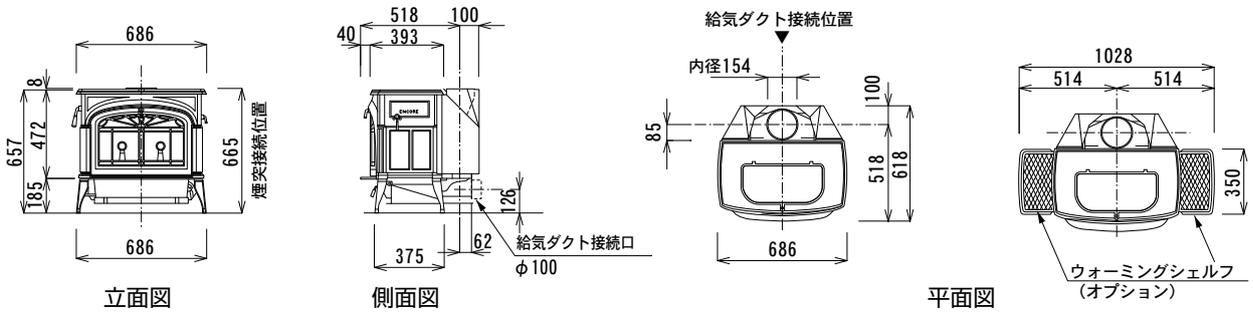
名称/品番	アンコール/ # 2040	デファイアント/ # 1975	
ストーブサイズ	幅 686 × 奥行き 618 × 高さ 657mm	幅 830 × 奥行き 647 × 高さ 735mm	
ストーブ重量	215kg	235kg	
材質	鋳鉄	鋳鉄	
仕上げ	黒耐熱塗装/ホウロウ仕上げ	黒耐熱塗装/ホウロウ仕上げ	
燃焼方式・性能	最大出力 ※1	13,400kcal/h (15.6kW)	13,600kcal/h (15.8kW)
	暖房面積	18 ~ 50 坪 (60 ~ 167㎡)	22 ~ 67 坪 (73 ~ 223㎡)
	燃焼効率	触媒式：86%/非触媒式：78%	触媒式：84%/非触媒式：76%
	PM 排出量 (EPA)：触媒無の燃焼	1.5g/ h	2.3g/ h
	PM 排出量 (EPA)：触媒燃焼	1.2g/ h	1.1g/ h
	燃焼システム	フレックスバーン燃焼システム	フレックスバーン燃焼システム
	燃料の種類	薪	薪
	燃料容量	18kg	23kg
	最大薪長さ	55cm	63cm
	温度調節機能 (火力調整レバー)	自動	自動
機能	天板	トップドア (クッキンググリドル)	トップドア (クッキンググリドル)
	ボトムヒートシールド	標準装備	標準装備
	リアヒートシールド	標準装備	標準装備
	灰受け皿	フタ付き	フタ付き
	ガラス	ガラス空気洗浄システム	ガラス空気洗浄システム
		耐熱セラミックガラス	耐熱セラミックガラス
	バイパスダンパー	標準装備	標準装備
	レッグレベル	標準装備	標準装備
アンダイヤン	標準装備	標準装備	
煙突直径	φ 150mm (6インチ) または φ 200mm (8インチ)	φ 150mm (6インチ) または φ 200mm (8インチ)	
オプション	ウォーミングシェルフ (ミトンラック付) 8インチフルカラー 給気フィルター	ウォーミングシェルフ (ミトンラック付) 給気フィルター	

※ 1：暖房面積は、アメリカ建築基準に適合した住宅を基準に完全乾燥した良質広葉樹による燃焼実験データです。  
上記スペックは、住宅構造、設置方法、薪質、お客様の使用状況により、必ずしも一致するものではありません。

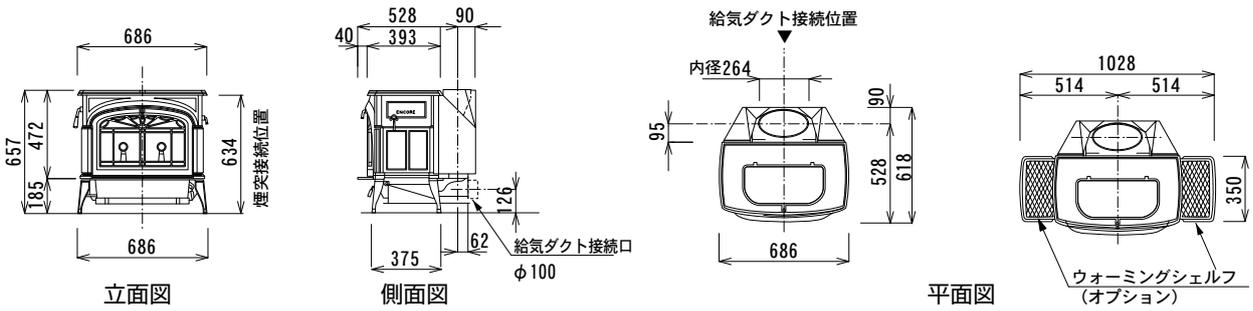
# ストーブ寸法図

## アンコール 6インチ

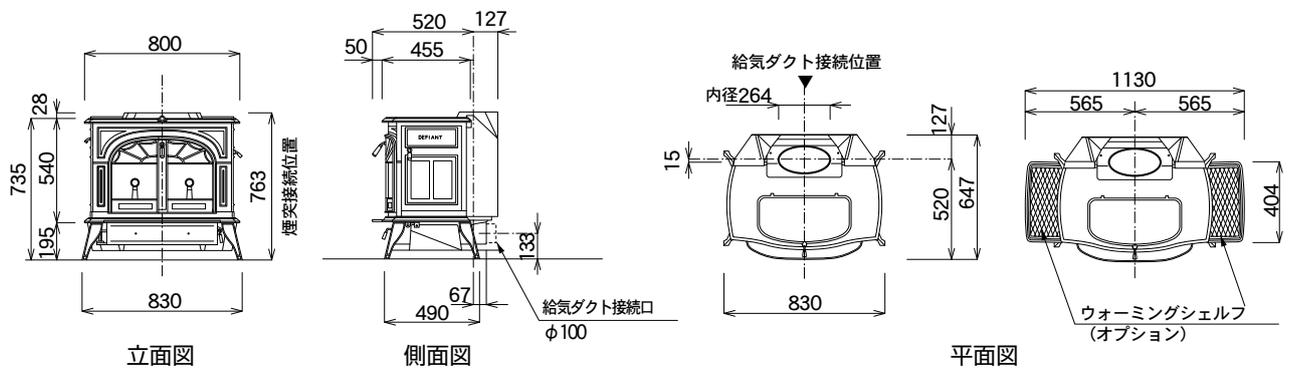
(単位: mm)



## アンコール 8インチ



## デファイアント



# 保証とアフターサービス

12

保証とアフターサービス

## 修理を依頼される前に ……

まずはトラブルシュート(48ページ)をご確認ください。解決しない場合やトラブルシュートにない異常、破損がある時は使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。

## 保証について

保証書は、赤いオーナーズマニュアルケースに同封してあります。

「お引き渡し日・販売店名」等に記入漏れがないかご確認ください。記入漏れがある場合、保証いたしかねますのでご注意ください(記入もれのある場合は、お買い上げの販売店にお申し出ください)。

保証書は内容をよくお読みになった後、大切に保管してください。

保証期間中の修理に際しては必ず保証書をご提示ください。

## 保証期間

保証期間はお買い上げいただいた日から2年間です。この期間中に本書に従った正常な使用状況のもとで故障が発生した場合、消耗部品(35ページ)を除き保証書の規定に従って無料修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合に限り、ご希望により有料にて修理いたします。お買い求めの販売店か弊社までお問い合わせください。

## 修理料金の内容

修理料金は部品代などで構成されています。

- 技術料/診断、故障箇所の修理、部品交換、調整、完了点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代/修理に使用した部品、および補助材料費用です。
- 出張料/製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

## 補修用性能部品の保有期限

補修用性能部品(性能を維持するために必要な部品)の保有期限は製造打ち切り後10年です。

## あんしん点検のご案内

所有者登録にご記入いただき、あんしん点検のご登録をいただいたお客様には、お引き渡しから5年後にあんしん点検(点検は有料)のご案内通知をお送りさせていただきます。

## ご不明な点や修理に関するご相談は…

ご不明な点ならびに故障・修理、あるいは部品のお取り替えに関するご相談は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

より一層のご理解をいただくために、本書とあわせて下記のサイトもご利用ください。



ファイヤーサイド 公式サイト



薪ストーブエッセイ・森からの便り

【取扱説明書ダウンロード】

<https://www.firesidestove.com/products/stoves/manual.html>

ファイヤーサイドのホームページより常に最新版の取扱説明書をダウンロードいただけます。



# VERMONT CASTINGS



輸入元

## ファイヤーサイド株式会社

長野本社 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 497-871  
TEL: 0265-82-4676(代) FAX: 0265-82-4683

☎ **0120-46-7877** Email: [info@firesidestove.com](mailto:info@firesidestove.com)  
<https://www.firesidestove.com>

Copyright 2018 Fireside Company Ltd.©

掲載されている全ての情報及び写真、イラスト等の無断転載、複写、複製を禁じます。



この印刷物は環境に優しい  
植物油型インキを  
使用しています。

CHU-2018.12. 15 900